HITACHI
Inspire the Next

日立ハイビジョンHDD/DVDレコーダー

DV-DH1000W
DV-DH500W
DV-DH250W
DV-DH160W

取扱説明書

接続・設定編

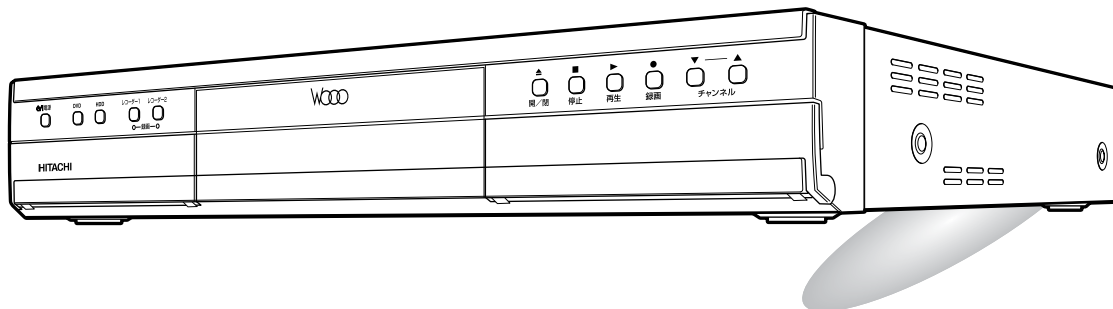
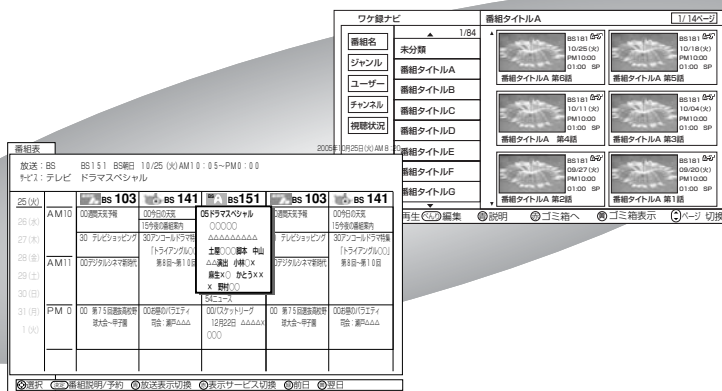
はじめにお読みください。
「接続･設定編」では、接続、受信チャンネル、各種機能の設定など、お使いになる前の準備について説明しています。
本機をもっと楽しむためには、別冊の取扱説明書 操作編 をご覧ください。

はじめに

本機にはテレビ放送の視聴に必要な設定を行う「簡単セットアップ」機能があります。
はじめて本機の電源を入れたときに、簡単セットアップ画面が出ます。38ページをご覧になり、設定してください。

はじめに
接続する
操作を始める前に
各種機能を設定する
付録

PROGRESSIVE

HDMI™

●本機は業務用には対応していません。

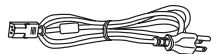
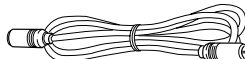
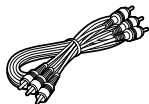
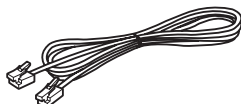
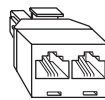
※ Gコード、G-CODE、およびGコードロゴは、米 Gemstar-TV Guide International, Inc.の日本国内における登録商標です。
※ Gコードシステムは、米 Gemstar-TV Guide International, Inc.のライセンスに基づいて生産しております。
※ TruSurround DIGITAL5.1CHは、SRS Labs, Inc.の商標です。
※ TruSurround DIGITAL5.1CH技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

HDD（ハードディスク）は一時的な保管場所です。
万一何らかの不具合により、録画や再生ができなかった場合、HDDの内容（録画済みの番組データなど）の補償や損失、直接・間接の損害について、当社は一切の責任を負いかねます。

この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

付属品を確認する

付属品をご確認ください。万一不足しているものがあれば、販売店にご連絡ください。

- リモコン
- 単3形乾電池…2個
- 電源コード
- RFケーブル…2本
- 映像・音声コード
- S映像コード
- B-CAS(ビーキャス)カード
- モジュラーケーブル
- モジュラー分配器(2分配用)

保証書 ……………………1冊
取扱説明書　接続・設定編(本書)…………1冊
　　　　　　操作編 ………1冊
お客様登録カード
BS/CSデジタルパンフレット

本機を設置するときのご注意

必ずお読みください

本機に内蔵のハードディスク(以下HDD)は非常に精密な機器です。使用する環境や取扱いによりHDDの動作および寿命に影響を与える場合がありますので、設置するときや動作中は次のことを必ずお守りください。

■ 設置時

●後面の冷却用ファンや側面の通風孔をふさがないでください。
●水平で振動や衝撃が起こらない場所に設置してください。
●ごみやほこりの少ない場所に設置してください。
●「結露」(つゆつき)が発生しにくい場所に設置してください。「結露」は故障の原因になります。
「結露」とは、冷たいコップの表面に水滴がついたりする現象です。急な温度変化が起きた場合や、寒い所から暖かい場所へ移動して設置する場合は「結露」が起こりやすくなります。そのような場合は、室温に約2～3時間なじませてから電源を入れてください。
●温度や湿度が高くない場所、直射日光があたらない場所に設置してください。温度や湿度の高い場所に設置すると故障の原因になります。
●安定した動作を維持するため、長期間ご使用されない場合でも、一年に一回程度は通電していただくことをおすすめします。
●HDDは精密部品であり、5℃以下の低温では動作保証しかねます。冬季などの録画予約時には本機の周囲温度にご注意ください。

■ 動作中

●電源プラグを抜いたり、電源ブレーカを切らないでください。
●振動や衝撃を与えたり、本機を動かしたりしないでください。
●動かすときには・・・①本体前面の電源スイッチを「切」にしてください。
②電源プラグをコンセントから抜いてください。
③2分以上待ってから本機を動かしてください。

お知らせ

● **本機の電源が入っている間、HDDは高速で回転しています。起動時や回転中に発生する音や振動は故障ではありません。**
● **データ読み取りの状態により、再生画面にまれにノイズが発生することがありますが、これは故障ではありません。**

もくじ

はじめに

接続する

操作を始める前に

各種機能を設定する

付録

安全上のご注意

ご使用の前にまず「安全上のご注意」をお読みになってから、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり物的損害を発生する可能性があります。

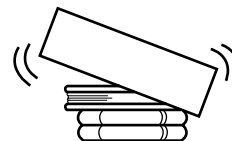
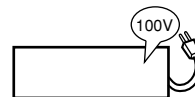
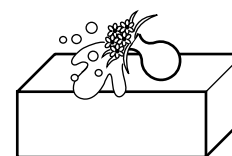
〈絵表示の例〉

△記号は警告（注意）を促すことです。（この例は「手を挟まれないよう注意」）

⃠記号は行為を禁止することです。（この例は「分解禁止」）

●記号は行為を強制することです。（この例はコンセントから必ず「電源プラグを抜く」）

⚠ 警告

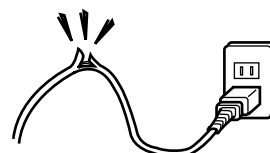
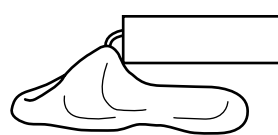
不安定な場所に置かない	● ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。		禁止
表示された電源電圧以外の電圧で使用しない	● 表示された交流100ボルト以外の電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。		禁止
水にぬらさない	● 水場では本機を使用しないでください。 ● 窓辺で使用するときは、本機をぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。 ● 万一内部に水などが入った場合は、使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。		水ぬれ禁止 電源プラグをコンセントから抜く
風呂場では使用しない	● 風呂、シャワー室では使用しないでください。 火災・感電の原因となります。		風呂、シャワー室での使用禁止
水の入った容器をのせたり、小さな金属物を置かない	● 本機の上に、花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品、水などの入った容器、または小さな金属物を置かないでください。誤って本機の内部に入ると、火災・感電の原因となります。		禁止

⚠ 警告

電源プラグが不完全な接続のまま使わない！たこ足配線をしない！

- ショートや発熱により、火災や感電につながります。
- 最後までしっかりと正しく接続してください。

禁止

電源コードを傷つけない

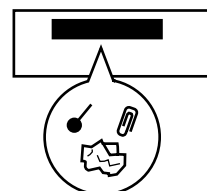
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると、電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを敷物などでおおわないでください。コードに気づかず、重い物をのせて電源コードを傷つけることがあるのでご注意ください。火災・感電の原因となります。

禁止
禁止

電源コードを加工しない

電源コードが傷んだら交換する

- 電源コードを加工したり、無理に曲げたりねじったり、引っ張ったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 電源コードの芯線が露出したり、断線したときは、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

- 本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 万一異物が本機の内部に入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

禁止
電源プラグをコンセントから抜く

改造しない カバーを開けない

- 本機を改造すると火災・感電の原因となります。
- 本機の裏ぶた、カバーは外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

異常なときは使わない

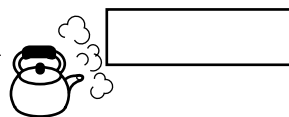
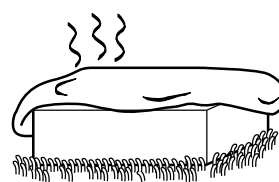
- 万一煙が出ている、へんな臭いがするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

電源プラグをコンセントから抜く

⚠ 警告

雷が鳴るときはアンテナ線、機器、電源プラグには触れない	● 雷が鳴り出したら、アンテナ線、機器、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。	接触禁止

⚠ 注意

油煙や湯気が当たる場所に置かない	● 火災・感電の原因となることがあります。	禁止
湿気やほこりの多い場所に置かない	● 調理台や加湿器のそばに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。	
移動させるときは注意を！	● 移動させるときは、取出しボタンを押して必ずディスクを取り出し、テレビなどとの接続線をはずしたことを確認のうえ、下記を行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ① 本体の電源を切る ② 電源プラグをコンセントから抜く ③ 2分以上待ってから本機を動かす	電源プラグをコンセントから抜く
直射日光が当たる場所や熱器具の近くに置かない	● キャビネットが変形したり、部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。	禁止
通風孔をふさがない	● 本機の通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。 また、内部に熱がこもった状態で本機に触れると、火傷の原因となることがあります。 本箱や押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込んだり、テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いたりしないでください。	禁止
本機の上に乗らない	● 倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。	禁止
本機の上に重い物を置かない	● 本機の上に重い物やテレビなどを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。	禁止

⚠ 注意

電源コードを熱器具に近づけない	● コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。		 禁止
電源プラグを持ってコンセントから抜く	● 電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。		 禁止
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない	● 感電する原因となることがあります。		 ぬれ手禁止
電源プラグのゴミやホコリにご注意！	● 電源プラグにゴミやホコリが付着したまま使用すると発熱・火災の原因となります。電源プラグの刃やその周辺は、乾いた布で拭きいつもきれいにしておいてください。		
お手入れするときは	● 安全のため電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。	 電源プラグをコンセントから抜く	
本機で指定されていない乾電池は使わない	● 指定されていない乾電池を使ったり、新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。乾電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となることがあります。	 	 禁止
乾電池は本機の指示どおり正しく入れる	● 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意してください。まちがえますと乾電池の破裂、液漏れにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。		
内部の掃除について	● 5年に1度くらいは、内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりがたまったまま、長いあいだ掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用については、販売店にご相談ください。		
ディスクトレイに指を挟まれないように注意する	● トレイが閉まるときにはさまれて、けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。	 手を挟まれないよう注意	

使用上のご注意

お手入れについて	●化学ぞうきんを使用するときは、その注意書に従ってください。 ●キャビネットや操作パネル部分の汚れは、軟らかい布で軽くふきとってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふきとり、乾いた布で仕上げてください。 ●キャビネットをベンジンやシンナーでふかないでください。塗装がはげたり変質することがあります。 ●キャビネットに殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させたままにしないでください。塗装がはげることがあります。
本機の機能動作について	●誤動作および故障などにより、本機が正しく動作しないことがあります。これによる付随的損害（機会損失による補償など）は、当社は一切の責を負いませんので、あらかじめご容赦ください。
ガラスドア付きラックに入れたとき	●ガラスドアを閉めたままリモコンの開／閉ボタンを押して、ディスクを取り出さないでください。強い力で動きが妨げられると、故障の原因になります。
ディスク挿入時は本機を絶対に動かさない	●ディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
熱を受けないようにする	●アンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱をさけるため、アンプよりできるだけ下の棚（ホコリをかぶらない程度）に入れてください。
結露について	●冬期などに本機を寒いところから温かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付きます（結露）。結露したままでは本機は正常に動作せず、録画や再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れずに室温で1～3時間放置してから、ご使用ください。 ●夏でもクーラーやエアコンの風が、本機に直接あたると結露がおこることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

その他の注意	●本機の近くでラジオを使用すると、ラジオ放送に“ブー”というハム音が出ることがあります。本機から離してご使用ください。 ●ステレオシステムと一緒に使う場合、スピーカーとモニターテレビは少し離してください。 ●テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。 ●テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。 ●静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。 ●ディスクの挿入口から異物を入れないでください。異物が取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。

電話回線の接続が必要な場合

デジタル放送では、電話回線を使って視聴記録データの送信や視聴者参加番組への参加などができるシステムを採用しています。本機にはNTTの2線式公衆電話回線で、プッシュ式またはダイヤル式（10 PPS/20 PPS)の電話機に接続の電話線を分配して接続してください。また、接続した電話回線は異常が発生しない限り、取り外さないでください。不特定多数の人が利用する公衆電話や共同電話、および2線式電話回線と接続しない電話機（携帯電話、PHSなど）では利用できない場合があります。

インターネット網への接続が必要な場合

地上デジタル放送では、インターネット網への接続により、さらに多様な双方向データサービスを利用することができます。本機で、このサービスを利用するには、常時接続の回線業者やインターネットサービスプロバイダーとの契約が必要です。

インターネット網への接続をしていないと、双方向データサービスを利用できない場合があります。

本機の受信周波数帯域に相当する周波数を用いた機器とは離してご使用ください

本機の受信周波数帯域（470MHz～2072MHz）に相当する周波数を用いた携帯電話などの機器を、本機やアンテナケーブルの途中に接続している機器に近づけると、その影響で映像・音声などに不具合が生じる場合があります。それらの機器とは離してご使用ください。

また、アンテナの接続時にアンテナケーブルや分配器、分波器などの機器を使用する場合は、共聴用のものをご使用ください。

本機の電源プラグは常時コンセントに接続しておいてください

長期間留守にされる場合や本機に異常が発生したとき以外は、本機の電源プラグをコンセントから抜いたままにしないでください。本機は電源オフ（スタンバイ／機能待機）状態でも、自動的にデジタル放送の情報を受信したり、視聴記録の送信を行ったりする場合があります。

天候不良によっては、画質、音質が悪くなる場合があります

雨の影響により衛星からの電波が弱くなっている場合は、引き続き放送を受信できる降雨対応放送に切り換えます。（降雨対応放送が行われている場合）降雨対応放送に切り換わったときは、画面にメッセージが表示されます。

降雨対応放送では、画質や音質が少し悪くなります。また、番組情報も表示できない場合があります。

視聴記録の送信について

B-CASカードに記録される視聴記録データは、定期的に電話回線を通じ（株）B-CAS〔(株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ〕へ自動送信されます。データ送信の電話料金は無料ですが、データ送信中は、同じ回線に接続の電話機は使用できません。

操作できなくなった場合は

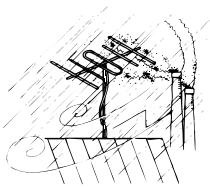
受信異常などにより、本機の操作ができなくなった場合は、本機前面左側のフタの中のリセットボタンを押すか、電源プラグをコンセントから抜き、再度電源ボタンを押してください。

ダウンロードについて

放送運用などに変更が生じた場合、本機のソフトウェアを更新して対応させるために、放送によるダウンロードサービスを行うことがあります。このサービスを受けるには、ご使用にならないときは、電源を切った状態にしておいてください。

110度CSデジタル放送をご覧になるには

110度CSデジタル放送に対応したアンテナが必要です。また、ブースターや分配器などをご使用の場合は、2150MHz対応の伝送機器が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

アンテナの点検・交換について

アンテナは風雨にさらされるため、美しい画像でお楽しみ頂くためにも点検・交換することをおすすめします。

特に、煤煙の多い所、潮風にさらされる所では、アンテナが早く傷みますので、映りが悪くなった場合は、販売店にご相談ください。

冷却用ファンについて

本機は、電源を入れたり、機能待機状態のときに、本機内部の温度を下げるためにファンの動作音がするときがありますが、故障ではありません。また、本機の電源を切っていても、以下のような場合はファンが動作しますが、故障ではありません。

●「ダビング実行中」、「予約録画中」の間。

●有料チャンネルの契約情報更新が行われた場合、約2時間以上。

本機の温度について

本機は、長時間使用したり、密閉されたラックに入れて使用したときなどに、上部が熱くなる場合があります。手で触れると熱く感じる場合もありますが、故障ではありません。また、熱で変形しやすいもの（オーディオテープ、ビデオテープなど）を上に置かないでください。

本機に記憶される個人情報などについて

お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気などのノイズの影響を受けたとき、停電があったとき、または故障、修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータなどが変化、消失する恐れがあります。これらの場合の損害や不利益について、当社は何ら責任を負うものではありません。

メモリーカードについて

本機またはメモリーカードリーダーに挿入されたメモリーカードに保存、記憶されているデータは、本機の操作を誤った場合や静電気などのノイズの影響を受けた場合、消失する恐れがあります。このような場合や万一何らかの不具合により、データが消失した場合の補償や損失、直接・間接の損害について、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。大切なデータは、他のメディアにバックアップを取っておくことをおすすめします。

■ 本製品には、ACCESS社製データ放送用BMLブラウザNetFront v3.0 DTV Profileを搭載しています。
NetFrontは株式会社ACCESSの日本国における登録商標です。

ACCESS NetFront® v3.0 DTV Profile

留意点

- 付属の B-CAS（ビーキャス）カードは、デジタル放送を視聴していただくために、お客様へ貸与された大切なカードです。破損や紛失などの場合は、ただちにB-CAS（ビーキャス）「（株）ビーエス・コンディショナル アクセス システムズ」カスタマーセンターへご連絡ください。お客様の責任で破損、故障、紛失などが発生した場合は、再発行費用が請求されます。
- 万一、本機の不具合により録画ができなかった場合の補償についてはご容赦ください。
- あなたが本機やビデオデッキなどで録画、録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
- 本機から電話回線などを通じて通信を行なうと、通話料金無料のフリーダイヤルでないかぎり、電話料金はお客様の負担になります。
- 本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。
- 国外でこの製品を使用して有料放送サービスを享受することは、有料サービス契約上禁止されています。
- この説明書に記載の画面イラストは、実際に表示される画面と異なる場合があります。チャンネル番号、チャンネル名、番組名などを含め、実際に表示される内容については画面でご確認ください。
- 本機の仕様および機能などは、ダウンロードなどにより予告なく変更することがあります。

著作権について

- **ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。**
- **ビデオデッキなどを接続してディスクの内容を複製しても、コピー防止機能の働きにより、複製した画面は乱れます。**
- 本機はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- DTS、DTSデジタルサラウンドは、デジタルシアターシステムズ社の登録商標です。
- DVDロゴは登録商標です。
- TruSurround DIGITAL5.1CHは、SRS Labs. Inc.の商標です。
- Gコード、G-CODE、およびGコードロゴは、米 Gemstar-TV Guide International, Inc.の日本国内における登録商標です。

あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録画補償金が含まれております。
お問合せ先：（社）私的録画補償金管理協会
☎03-3560-3107（代）

リサイクルについて

本製品の梱包材はリサイクルができ、再利用が可能です。お住まいの地域のリサイクルに関する取り決めに従って梱包材を処分してください。乾電池は、投棄や焼却処分をしないで、化学廃棄物に関する地元自治体の規制に従って処分してください。

デジタル放送の特長

本機はデジタル放送チューナーを内蔵しているので、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送、地上デジタル放送を見ることができます。

デジタル放送の特長

デジタルハイビジョン放送

デジタルハイビジョンの放送フォーマットは走査線1125本（有効1080本）・飛び越し走査1125i（1080i）と走査線750本（有効720本）・順次走査750p（720p）の2種類があり、細部まできれいに表現され、臨場感豊かな映像を楽しめます。また、現行のテレビ放送とほぼ同等の画質のデジタル標準テレビ放送もあります。

多チャンネル放送

デジタル信号圧縮技術により、従来のアナログ放送に比べると多くのチャンネル放送を行うことができます。デジタルハイビジョン放送やデジタル標準テレビ放送の多チャンネル化の他に、独立データ放送やデジタルラジオ放送も行われます。

データ放送

文字や静止画で送られてくる情報から必要な情報を選んで画面に表示させることができます。データ放送には、テレビ放送やラジオ放送の番組に連動したデータ放送と、独立したデータ放送の2種類があります。また、電話回線を使用した視聴者参加番組やショッピング、バンキングなどの双方向サービスもあります (地上デジタル放送では、インターネット網への接続が必要な場合があります)。

サラウンド・ステレオ

音声信号圧縮技術MPEG-2 AAC方式の採用により、最大5.1チャンネル (5チャンネルステレオ+低域強調チャンネル) のサラウンド音声の番組も放送され、臨場感ある音声を楽しむことができます。
（ただし、5.1チャンネルのサラウンド音声をお楽しみいただくには、AAC方式の光デジタル音声入力に対応したオーディオ機器を接続する必要があります。）

電子番組ガイド（EPG：Electronic Program Guide）

デジタル放送では、それぞれのチャンネルごとに約1週間分の番組情報が送られることがあります。それらの番組情報は電子番組ガイドとして利用することができます。電子番組ガイドでは画面上にそれぞれのチャンネルの番組表を表示させ、番組表から見たい番組を選んだり、番組の詳細情報を表示させたり、録画したい番組を事前に予約したりすることができます。

デジタル放送の種類

本機で視聴できるデジタル放送には、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送、地上デジタル放送の3種類があります。

BSデジタル放送

BSデジタル放送は、東経110度に位置する放送衛星を利用したデジタル放送です。デジタルハイビジョン放送が中心で、無料放送の多いことが特長です（一部有料放送もあります）。基本的に放送事業者ごとの放送となるため、受信契約や登録が必要な場合は放送事業者ごとに申し込みが必要です。

110度CSデジタル放送

110度CSデジタル放送は、東経110度に位置する通信衛星を利用したデジタル放送です。BSデジタル放送とは異なり、デジタル標準テレビ放送が中心で、映画、スポーツ、エンターテイメントなど有料専門チャンネルが多いのが特長です (一部無料放送もあります)。

地上デジタル放送

地上波のUHF帯を使用したデジタル放送です。デジタルハイビジョン放送に加えて、データ放送や双方向データサービスなどが予定されています。地上アナログ放送に比べてゴーストなどの影響を受けにくいのが特長です。

お知らせ

- 本機でBSデジタル放送および110度CSデジタル放送の両方を受信するには、110 度CS対応BSデジタルアンテナを使用する必要があります。
- 110度CSデジタル放送は、従来のCSデジタル放送「スカイパーフェクTV!（スカパー!)」（東経128度、124度のJSAT-3、JSAT-4を利用）とは異なる放送です。従来の「スカイパーフェクTV! (スカパー!)」を受信するには、専用デジタルチューナーが必要です。本機では受信できません。

デジタル放送の受信契約について

B-CASカードは必ず登録してください
本機に付属のB-CASカード台紙の一部が（株）B-CASへのユーザー登録用はがきになっています。台紙に記載の文面をよくお読みのうえ、ユーザー登録はがきに必要事項を記入・押印してお送りください。登録料は無料です。

デジタル放送を見るときや録画するときは、必ずB-CASカードを挿入してください
B-CASカードは、有料放送の課金や放送局からのメッセージを管理する他、著作権保護のためのコピー制御にも利用されます。デジタル放送を視聴する際は、必ずB-CASカードを挿入してください。

BSデジタル放送を受信するには

WOWOW、スター・チャンネルなどのBSデジタル放送の有料放送サービスを受信するには、B-CASカードの登録の他に、見たい番組を放送している放送局との受信契約が必要になります。本機に同梱されている加入契約書に必要事項をご記入のうえ、お送りください。

● 詳しくはそれぞれの放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。お問い合わせの際は、電話番号のお間違えのないようにお願いいたします。

BSデジタル放送局のお問い合わせ先（2005年7月現在）

BS放送局	お問い合わせ先	参考
NHK BS1 NHK BS2 NHK デジタルハイビジョン （101、102、103ch）	0120 -151515 （受信契約専用フリーダイヤル） 受付時間　9:00～20:00（年中無休） http://www.nhk.or.jp/ps/	NHKと衛星放送受信を契約していない場合は、衛星放送受信の契約が必要です。
WOWOW （191、192、193ch）	0120−480801（フリーダイヤル） 0570−008080（ナビダイヤル） （携帯電話などをお使いの場合は、 045−683−8080 ） 受付時間　9:00～20:00（年中無休） http://www.wowow.co.jp/	WOWOWはテレビ放送のみの申し込みが必要な放送です。ラジオ放送（491、492ch）と独立データ放送（791、792ch）は無料放送です。
スター・チャンネルBS （200ch）	0570−010−110（ナビダイヤル） （携帯電話などをお使いの場合は、 045−339−1555） 受付時間　10:00～20:00（年中無休） http://www.star-ch.co.jp/pc/star	スター・チャンネルBSはテレビ放送のみの申し込みが必要な放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。

お知らせ

● NHKでは、BSデジタル放送のメッセージ機能を利用して受信確認を行っています。すでにNHKと衛星放送受信を契約していても、本機に同梱されている「B-CASカードユーザー登録はがき」を送っていない場合、またははがきを送っていても下部の「はい」に○がついていない場合は、B-CASカードを本機に挿入してから30日経過後、NHK-BSデジタル放送のチャンネルに合わせると、画面左下にＮＨＫへの連絡をお願いするメッセージが表示されます。このメッセージは、画面に表示されるNHKのフリーダイヤルに連絡し、B-CASカード番号、住所、名前、電話番号などを伝えると消えます。
● 一部のデータ放送などには、無料放送でもユーザー登録が必要な場合があります。詳しくは、それぞれの放送局へお問い合わせください。

110度CSデジタル放送を受信するには

110度CSデジタル放送の有料放送サービスを受信するには、B-CASカードの登録の他に、「スカイパーフェクTV！110（スカパー!110）」との受信契約が必要になります。110度CSデジタル放送は、BSデジタル放送のように個別の放送事業者ごとではなく、「スカイパーフェクTV！110（スカパー!110）」が放送チャンネル受信契約の代行を行っています。

- 110度CSデジタル放送では、チャンネルごとの受信契約の他に、チャンネルごとに契約するよりも料金がお得なパック契約が用意される場合があります。
- 詳しくはカスタマーセンターへお問い合わせください。お問い合わせの際は、電話番号のお間違えのないようにお願いいたします。

  スカイパーフェクTV！110（スカパー!110）・カスタマーセンター
  0570−012−110または045−339−0002
  受付時間　10:00～20:00（年中無休）
  http://www.skyperfectv110.jp/
  （2005年7月現在）

地上デジタル放送を受信するには

地上デジタル放送を受信するには、以下の条件をすべて満たしていることが必要です。

受信地点が、すでに放送地域になっていること

関東・中京・近畿の三大都市圏では、2003年12月から放送が開始されています。その他の地域では、2006年末までに順次開始される予定となっています。
地上デジタル放送の受信エリアの目安については、下記にお問い合わせください。
総務省地上デジタルテレビジョン受信相談センター
0570-07-0101
受付時間　9：00～21：00（平日）
　　　　　9：00～18：00（土、日、祝祭日）
http://www.d-pa.org/
（2005年7月現在）

UHFアンテナが、地上デジタル放送に対応していること

UHFアンテナには全帯域型と帯域専用型があります。地上デジタル放送を受信するには全帯域型または地上デジタル放送対応型のUHFアンテナをご使用ください。

UHFアンテナが、地上デジタル放送の送信塔の方向に向いていること

現在お住まいの地域で、地上デジタル放送の送信塔が地上アナログ放送と同じ方向の場合は、そのままの向きで地上デジタル放送を受信できます。地上デジタル放送の送信塔が違う方向の場合は、UHFアンテナの向きを地上デジタル放送の送信塔の方向に変更してください。

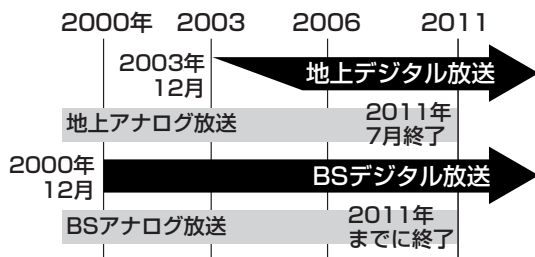
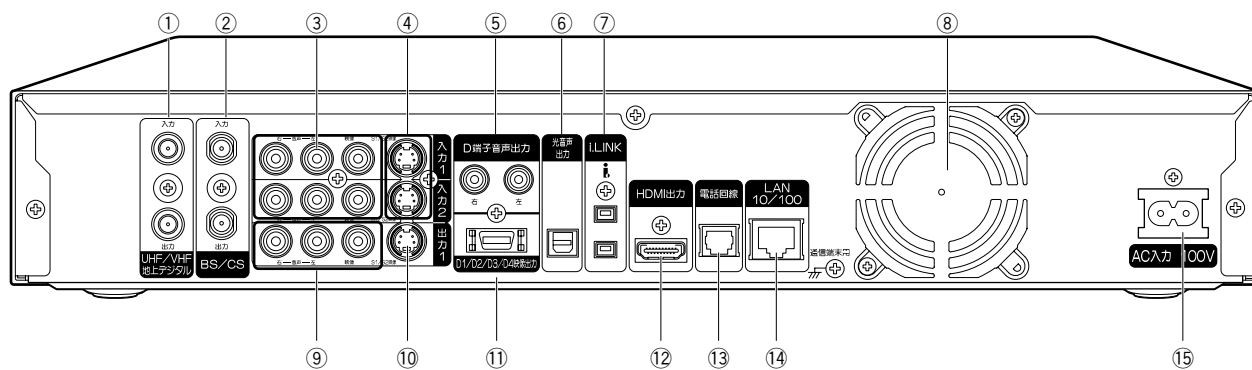
地上デジタル放送受信機の入力信号に、必要な強度があること

地上デジタル放送は、現在のアナログ放送との混信を避けるために、当初は非常に小さな出力で放送されます。そのため受信エリアが限定されます。また、受信エリア内であっても、地形やビル陰などによって電波がさえぎられる場合や電波の伝搬状況などにより、視聴できない場合があります。

お知らせ

- ケーブルテレビまたは共聴・集合住宅施設で地上デジタル放送を受信する場合は、ケーブル事業者または共聴施設管理者にお問い合わせください。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。
地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。

背面端子の名称と機能

① **UHF（地上デジタル/アナログ）／VHF（地上アナログ）放送用アンテナ入出力端子**
地上デジタル放送、地上アナログ放送用のアンテナ線を接続します。

② **BS・110度CSデジタル放送用アンテナ入出力端子**
BS・110度CSデジタル放送用のアンテナ線を接続します。

③ **映像・音声入力1/2 端子**
ビデオデッキ、CATVホームターミナル、BS・CSチューナーなどの映像・音声出力端子と接続します。

④ **S1/S2 映像入力端子**
ビデオデッキ、CATVホームターミナル、BS・CSチューナーなどのS映像出力端子と接続します。

⑤ **D端子音声出力**
本機のD1/D2/D3/D4映像出力端子とテレビを接続したときに、テレビの音声入力端子と接続します。

⑥ **光デジタル音声出力端子**
光デジタル音声入力端子付きアンプやデコーダーと光デジタルケーブルで接続します。

⑦ **i.LINK端子（DV-DH1000W/500W）**
i.LINKコードを使用して、D-VHSデジタルハイビジョンビデオデッキなどのi.LINK対応機器と接続します。i.LINK対応機器と接続すると、機器間で映像、音声、制御信号を送信することができます。

⑧ **冷却用ファン**
電源を切っても回り続ける場合があります。

⑨ **映像・音声出力端子**
テレビの映像・音声入力端子と接続します。

⑩ **S1/S2映像出力端子**
テレビのS映像入力端子と接続します。

⑪ **D1/D2/D3/D4映像出力端子**
D映像入力端子のあるテレビと接続します。

⑫ **HDMI出力端子（DV-DH1000W/500W/250W）**
HDMI入力端子のあるテレビと接続します。
※Ver.1.1対応（ただしDVD-Audioには非対応）

⑬ **電話回線接続端子**
電話回線と接続します。

⑭ **ネットワーク端子**
常時接続環境のインターネット網とLANケーブルで接続します。
（地上デジタル放送の双方向データ放送で使用されます。）

⑮ **電源コード差込口**
電源コードを接続します。

接続の流れ

次の流れに沿って、本機との各接続を行ってください。

1 アンテナ線を接続します 20ページ

2 デジタル放送を受信する場合は、本機にB-CASカードを挿入します 23ページ

3 電源を接続します 24ページ

4 テレビを接続します 25ページ

5 CATV（ケーブルテレビ）を視聴する場合にご覧ください 28ページ

6 他の機器と接続する場合にご覧ください(ビデオ､i.LINK､オーディオ､カメラ) 29ページ

7 デジタル放送の拡張的な機能を使う場合にご覧ください 33ページ

ご注意

- 本機と他の機器を接続するときは、以下の点に注意してください。
  - ・各機器の電源を切ってから接続してください。
  - ・接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

❶アンテナ線を接続する

まず、アンテナを本機に接続します。

本機には、次の放送を受信するためのアンテナ入力端子があります。

●地上アナログ（VHF/UHF）放送／地上デジタル（UHF）放送

本機は、地上アナログ放送と地上デジタル放送を、共通の1つの端子から受信できます。

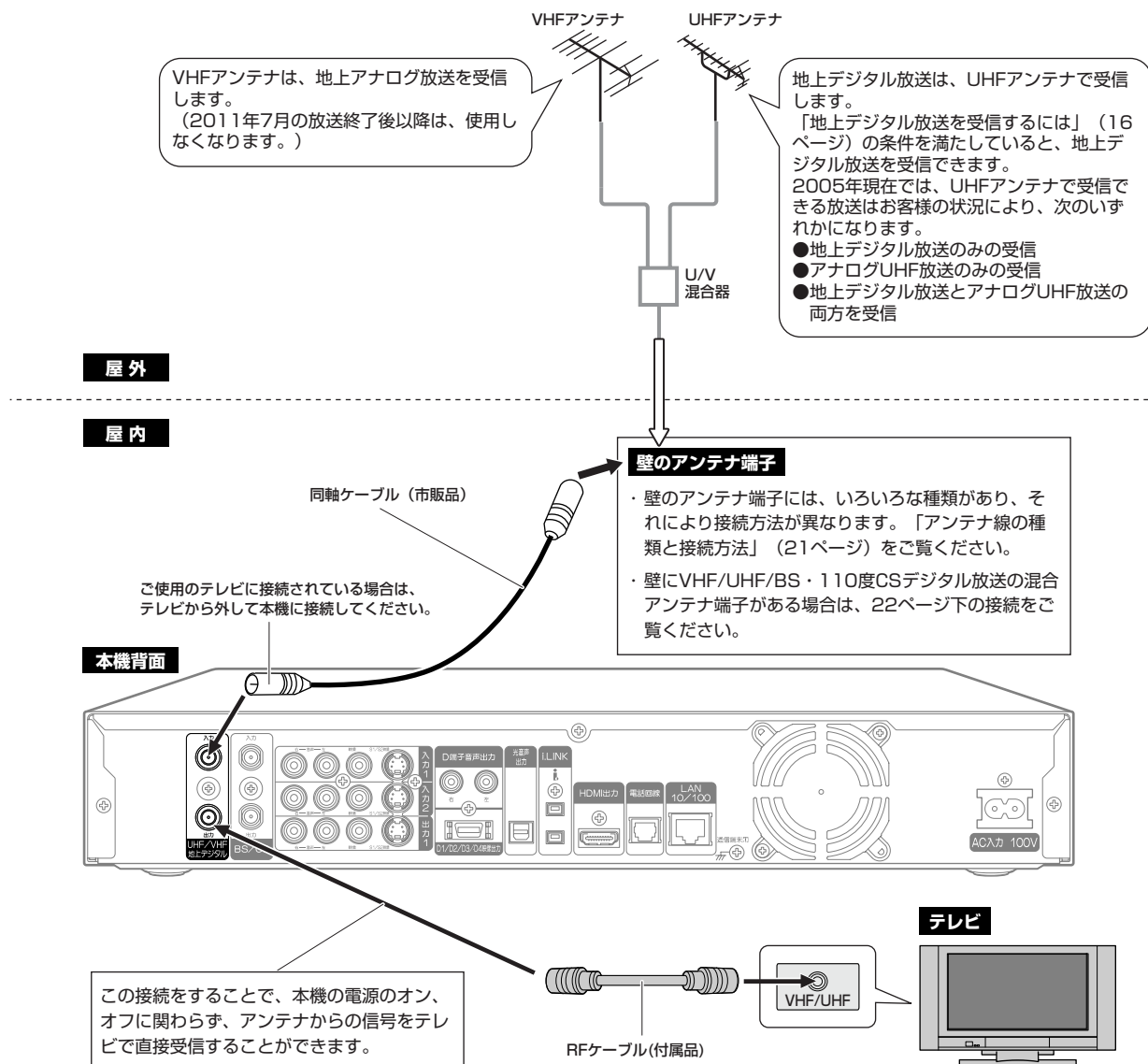
●BS・110度CSデジタル放送

市販の、110度CS対応BSデジタルアンテナを使用してください。

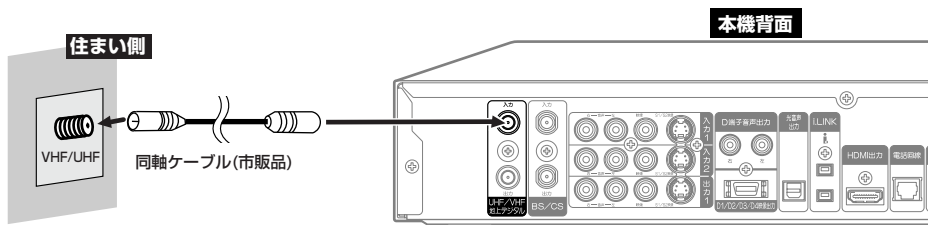
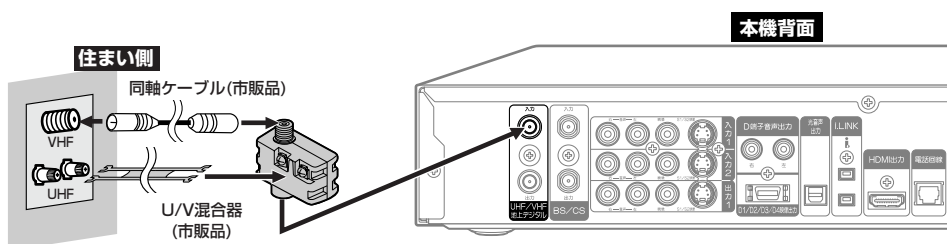
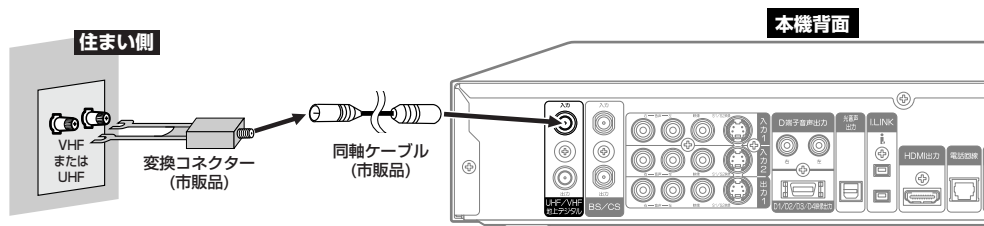
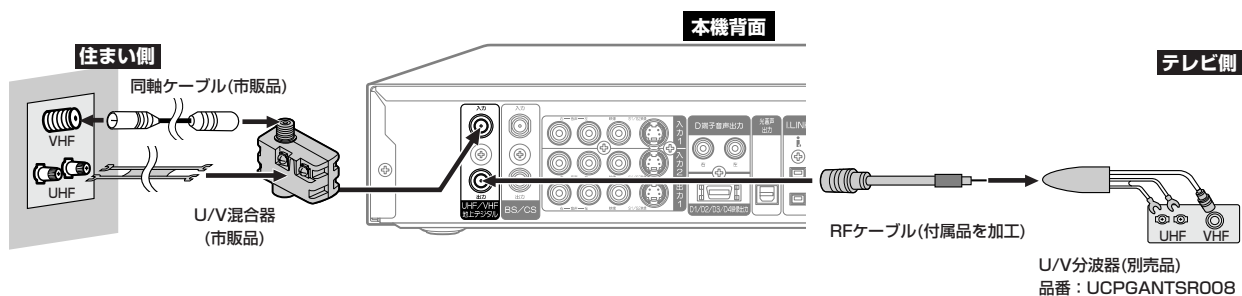
今までのBSアンテナでは、110度CSデジタル放送は受信できません。また、BSデジタル放送も映らない場合があります。

ご注意

- テレビ放送がCATV（ケーブル）のみで配信されている場合は、「④CATV（ケーブルテレビ）を視聴する場合は、そのための接続をする」（28ページ）を行ってください。
- アンテナ工事は技術が必要です。販売店にご相談ください。
- VHF/UHFアンテナが独立しているなど、混合器の取り付けが必要な場合は、販売店にご相談ください。
- アンテナ線の接続には、妨害の少ない同軸ケーブルの使用をおすすめします。平行フィーダーを使用すると、受信状態が不安定なために妨害電波を受けやすくなり、画面にしま模様が現れたりします。やむを得ず平行フィーダーを使用する場合は、テレビからできるだけ離してください。また、室内アンテナも妨害電波を受けやすいので、使用を避けてください。
- 電源コードや他の接続コード類は、アンテナ線からできるだけ離してください。

地上アナログ／デジタル放送のアンテナ接続をする

アンテナ線の種類と接続方法

お住まいの地域や設備によって、VHF/UHFアンテナ線の種類や接続形態が異なります。

住まい側がVHFアンテナ線、UHFアンテナ線、VHF/UHF混合アンテナ線のいずれかのとき

住まい側にVHFアンテナ線とUHFアンテナ線の両方があるとき

住まい側がVHFまたはUHFアンテナ線のとき

テレビのVHFアンテナ入力端子とUHFアンテナ入力端子が別々の場合

① RFケーブルの先端を加工してU/V分波器の入力端子に接続する。
② U/V分波器の出力端子をテレビのVHFアンテナ入力端子およびUHFアンテナ入力端子にそれぞれ接続する。

ご注意

- アンテナ線の種類によっては、アンテナプラグ（市販品）やU/V混合器（市販品）が必要な場合があります。
- 電波が弱い地域の場合、アンテナブースター（市販品）をご使用いただくことにより、電波の受信感度を全体的に増幅させることができますが、ノイズも同じく増幅されるために、テレビ画像にノイズが残る場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。

❶アンテナ線を接続する（つづき）

BS・110度CSデジタル放送のアンテナ接続をする

屋外　屋内

110度CS対応
BSデジタルアンテナ

壁にVHF/UHF/BS・110度CSデジタル放送の混合アンテナ端子がある場合は、本ページ下の接続をご覧ください。

本機背面

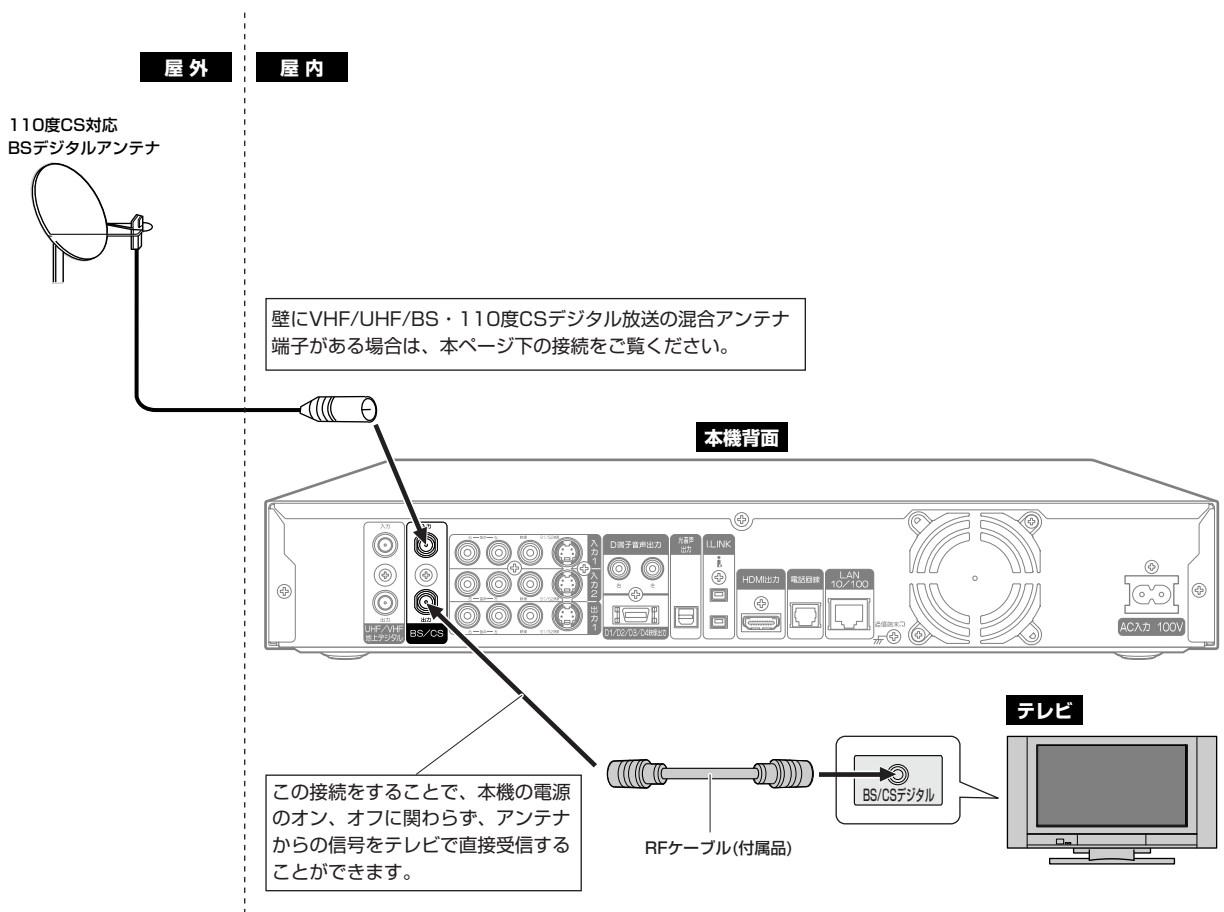
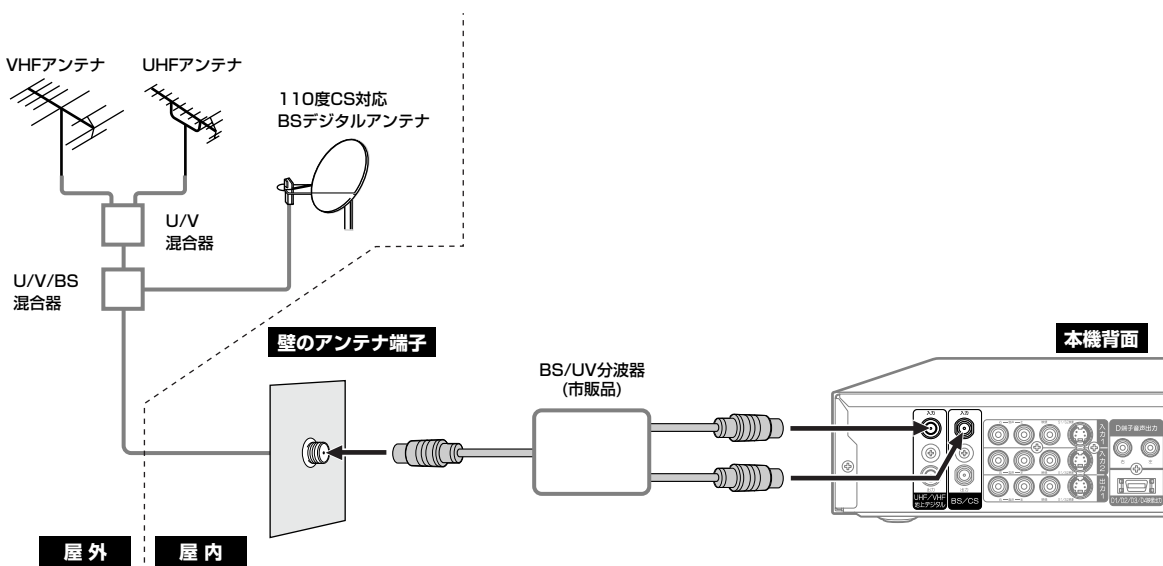
UHF/VHF 地上デジタル　BS/CS

AC入力 100V

テレビ

BS/CSデジタル

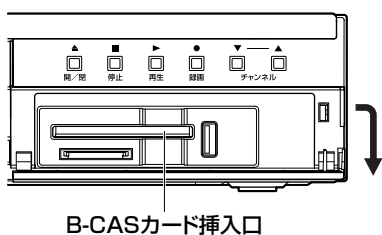
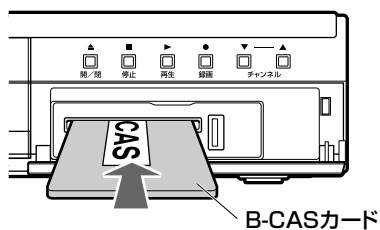
この接続をすることで、本機の電源のオン、オフに関わらず、アンテナからの信号をテレビで直接受信することができます。

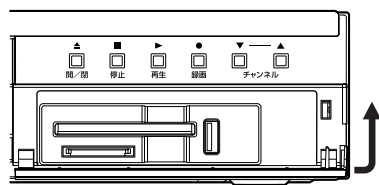
RFケーブル(付属品)

壁にVHF/UHF/BS・110度CSデジタル放送の混合アンテナ端子がある場合の接続

❷ デジタル放送を受信する場合は、本機にB-CASカードを挿入する

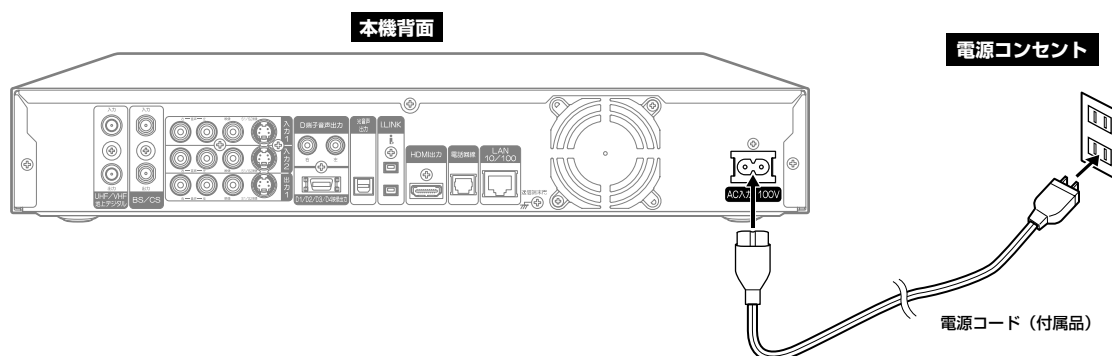
地上デジタルやBS・110度CSデジタル放送を受信するときは、B-CASカードを必ず挿入してください。地上アナログのみを受信している場合は、この手順は不要です。

ご注意

- 電源は、接続しないでください。
  接続後にB-CASカードを挿入する場合は、必ずいったん電源コードをコンセントから外してください。

1 本機前面右側のフタを開ける

2 絵柄表示面を上にしてB-CASカードを挿入する

• 絵柄の矢印を挿入口に合わせ、挿入が止まるまでゆっくりと押し込みます。

3 本機前面右側のフタを閉める

❸電源を接続する

本機の電源コード差込口に電源コードを差し込み、電源コードの電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。

■ 長期間使用しないときには

節電のため、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。電源を切った状態でも、電力を消費しています。

❹テレビを接続する

テレビの端子を確認する

ご使用のテレビの映像信号入力端子の種類によって、接続方法が異なります。テレビの端子を確認し、どれか1つの方法で接続してください。映像品質の良い順に接続方法を並べると、次のようになります。

HDMI端子 → D映像端子 → コンポーネント映像端子 → S映像端子 → 映像端子

HDMI入力端子

(DV-DH1000W/500W/250W)
テレビにこの入力端子があると、本機からデジタル映像と音声の両信号を、1本のケーブルで、高品質のままテレビに送ることができます。
接続方法は、「HDMI端子との接続」（26ページ）をご覧ください。

D映像入力端子

HDMI端子接続の次にお勧めする接続方法です。コンポーネント映像入力端子よりも高品質な映像が得られます。
接続方法は、「D端子との接続」（26ページ）をご覧ください。

コンポーネント映像入力端子

D映像入力端子接続の次にお勧めする接続方法です。S映像端子よりも高品質な映像が得られます。接続方法は、「コンポーネント端子との接続」（26ページ）をご覧ください。

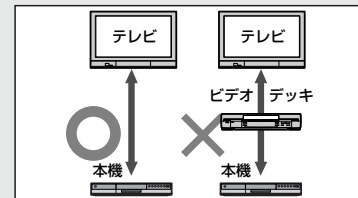
S映像入力端子

映像端子よりも質の良い画像が得られます。接続方法は、「S映像端子との接続」（27ページ）をご覧ください。

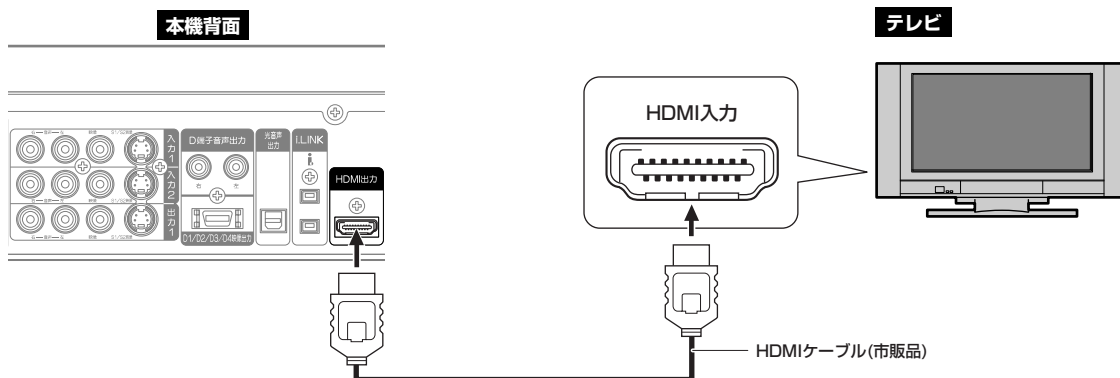
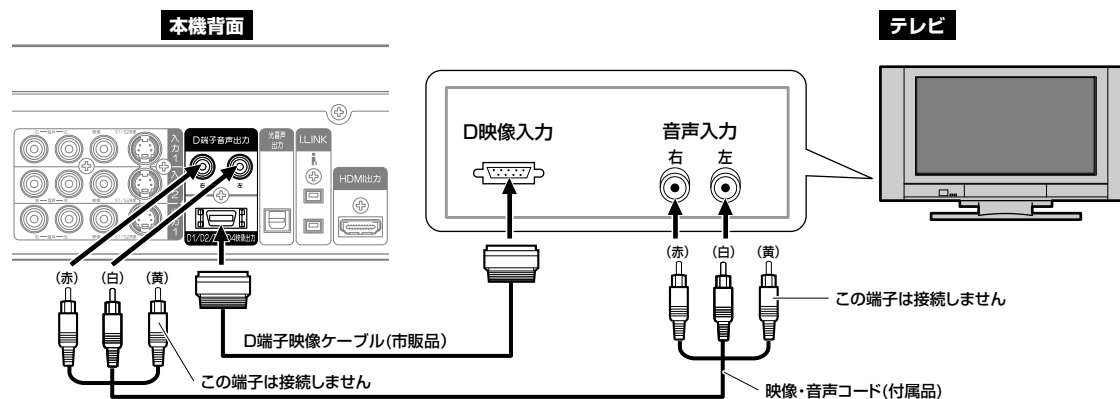
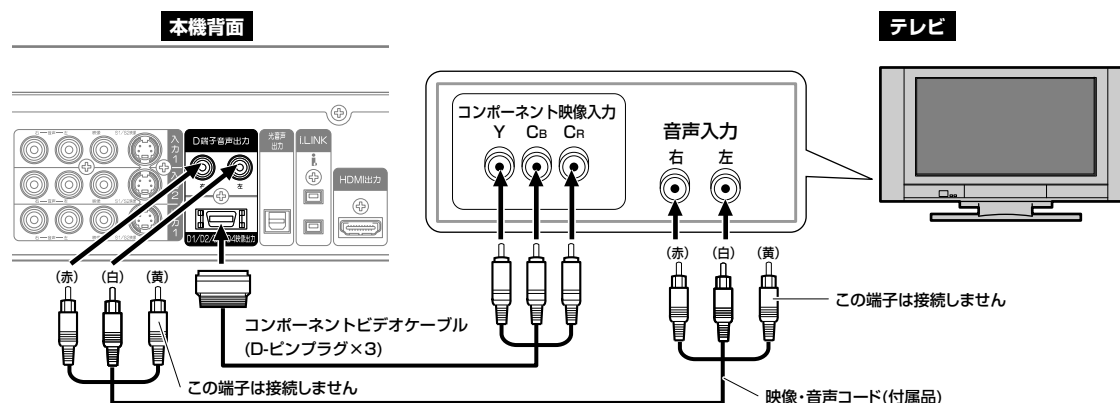
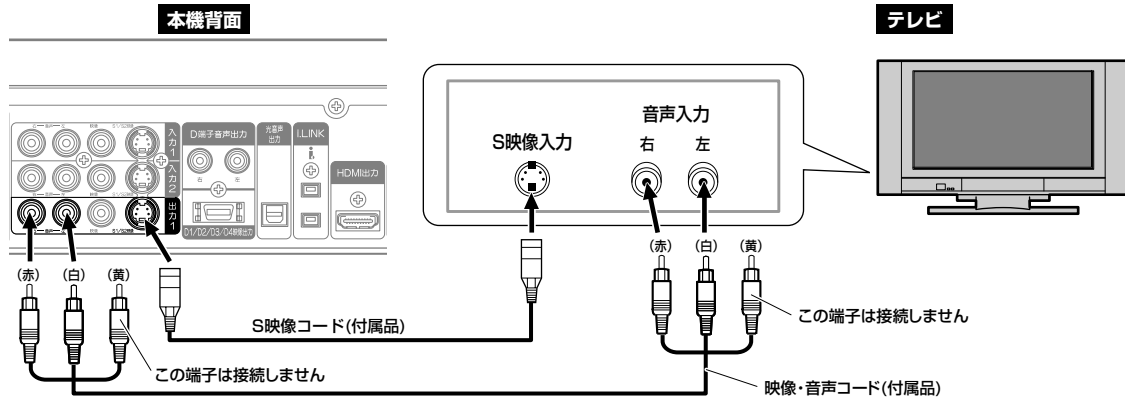
映像入力端子

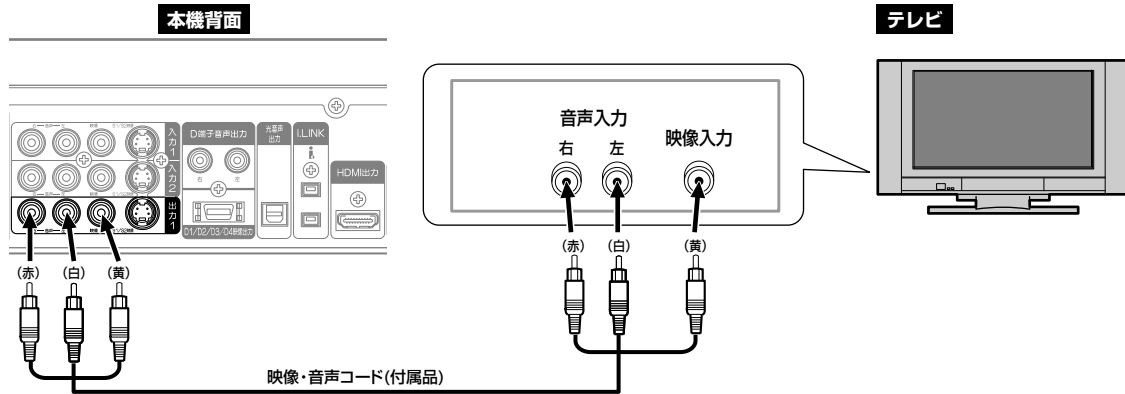
テレビに映像端子しかない場合は、この端子と接続してください。接続方法は、「映像端子との接続」（27ページ）をご覧ください。

ご注意

- ビデオデッキ経由で本機とテレビを接続しないでください。コピーガードの影響により、再生時に画面が乱れることがあります。
- ビデオ内蔵テレビと本機を接続するときは、ビデオ側ではなく、テレビ側の入力端子に映像・音声コードを接続してください。画面の乱れが発生する場合は、他のテレビと接続してください。
- D映像出力端子とHDMI出力端子は、どちらか一方しか信号が出力されません。HDMIケーブルを接続すると、出力が自動的にHDMI出力端子に切り換ります。
  映像が出ない場合は、本機の電源を入れた後で、リモコンの［決定］を押しながら［入力切換］を押して、出力先を切り換えてください。
- D1/D2映像入力端子のあるテレビに接続する場合は、D端子をいったん外して「映像端子との接続」（27ページ）の接続を行ってから、「接続するテレビに関する機能を設定する」（83ページ）の「D端子出力設定」を「固定：525i」または「自動：D2」に設定してください。「D端子出力設定」の設定が正しくないと、D映像出力端子からの映像がテレビに映りません。
- HDMI出力端子またはD映像出力端子で接続している場合、本機の回路上の制約により映像端子およびS映像端子の映像は正しく表示されません。また、映像端子およびS映像端子からの映像、音声にくらべ、D映像出力端子およびHDMI出力端子の映像、音声はわずかに遅れます。

お知らせ

- S映像端子／映像端子
  お使いのテレビにオートワイドやスムーズワイド機能がある場合、画面上の表示が一部見えなくなることがあります。そのような場合は、テレビの表示モードをフルモード（16:9 固定表示モード）またはノーマルモード（4:3 固定表示モード）に切り換えてください。
- S映像端子
  本機は自動的にワイドテレビの画面表示を切り換えるS1/S2規格に対応しています。

HDMI端子との接続（DV-DH1000W/500W/250W）

D映像端子との接続

コンポーネント端子との接続

S映像端子との接続

映像端子との接続

ご注意

- HDMI出力端子またはD映像出力端子で接続している場合、本機の回路上の制約により映像端子およびS映像端子の映像は正しく表示されません。また、映像端子およびS映像端子からの映像、音声にくらべ、D映像出力端子およびHDMI出力端子の映像、音声はわずかに遅れます。
- 本機のHDMI端子を変換ケーブルなどを使ってテレビやモニターのDVI端子に接続した場合、本機の設定に関らず、1125iや720pモードで映像を出力することはできません。
- 本機のHDMI端子に接続したテレビやオーディオ機器によっては、対応音声フォーマットにより音声が出ないことがあります。
  この場合は、「各種設定」の「デジタル音声出力」を「PCM」に設定してください（61ページ）。
- HDMIケーブルは、 HDMI の表示があるケーブルを使ってください。

❺ CATV（ケーブルテレビ）を視聴する場合は、そのための接続をする

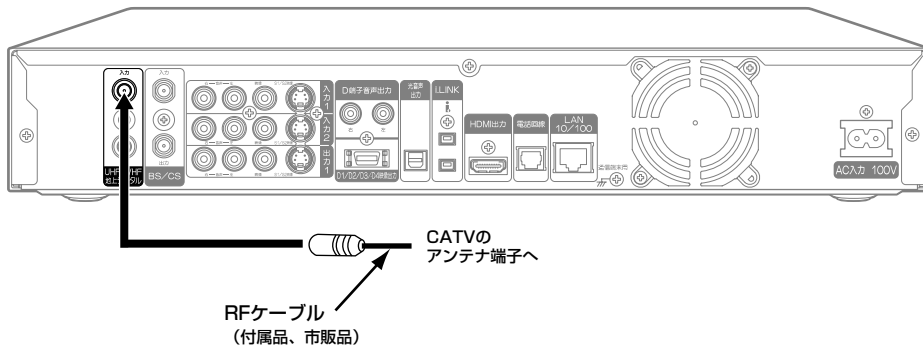
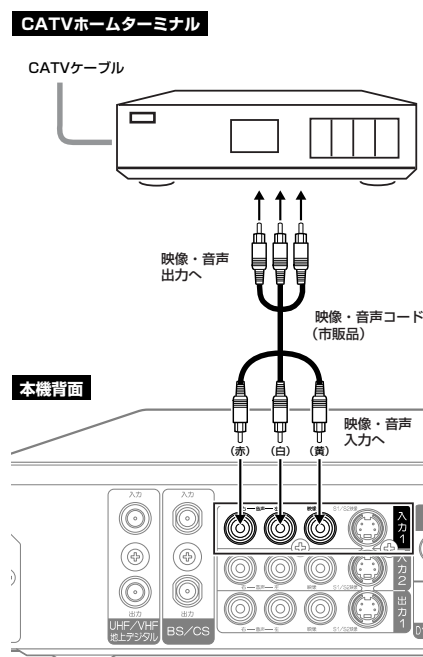
CATV（ケーブルテレビ）には、以下のような伝送方式があります。

● CATVの受信はCATV会社との契約が必要です。また、放送方式や接続について、詳しくはCATV会社にお問い合わせください。

伝送方式	特長	本機の対応
トランスモジュレーション方式	放送局から受信した電波をケーブルテレビ局の電波に変換して送信する方式です。CATVホームターミナルと本機を接続すると、CATVの番組を本機で録画することができます。CATVホームターミナル側の接続については、CATVホームターミナルの取扱説明書をご覧ください。	○
同一周波数パススルー方式	UHF帯の地上デジタル放送が変換されずにそのまま伝送される方式です。CATV局と接続するだけで、地上デジタル放送を受信することができます。	○
周波数変換パススルー方式	UHF帯の地上デジタル放送をCATVで伝送可能な周波数に変換して伝送する方式です。CATV局と接続するだけで、地上デジタル放送を受信することができます。	○

お知らせ

● CATVの受信は、サービスが行われている地域のみ可能で、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。さらにスクランブル放送（有料）を受信するにはアダプター（ホームターミナル）が必要です。詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

同一周波数パススルー方式、周波数変換パススルー方式で接続する

トランスモジュレーション方式（CATVホームターミナル）で接続する

・ハイビジョン画質での録画はできません。
・本機の番組表やダウンロード機能はお使いになれません。

ご注意

● CATVホームターミナルのD映像端子やコンポーネント映像端子からの映像を録画することはできません。

お知らせ

● トランスモジュレーション方式は、BSデジタル放送や110度CSデジタル放送の再送信にも使用されているため、受信側は1台のデジタル放送対応のCATVホームターミナルで地上・BS・110度CSのすべてのデジタル放送を受信することができます。詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

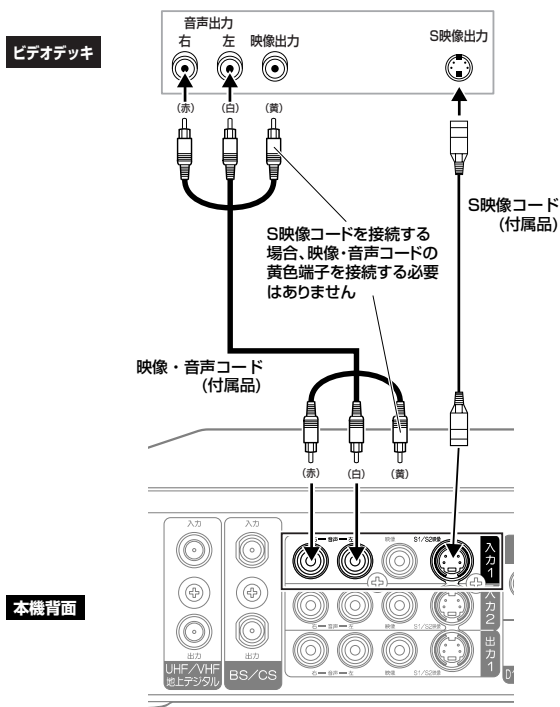
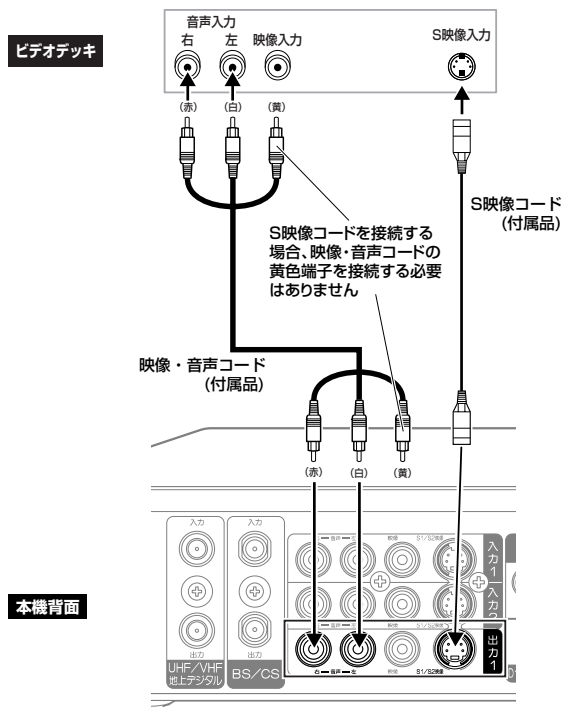
❻他の機器を接続する

お好みやご使用の目的に合わせて、ビデオデッキなどお持ちの他の機器を接続します。

ビデオデッキと接続する

ビデオデッキと本機を接続すると、ビデオデッキで再生している映像をテレビに映したり、本機に録画することができます。また、本機で再生している映像をビデオデッキで録画することもできます。

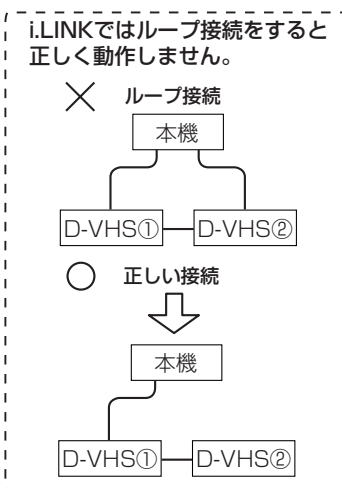
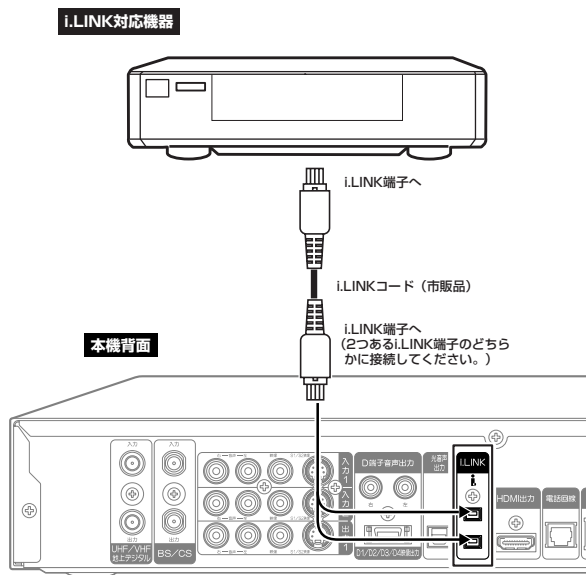
映像・音声コードおよびS映像コードを使用して、下図のように接続してください。

本機で録画できるように接続する場合

ビデオデッキで録画できるようにする場合

お知らせ

● コピーガード信号が入っているテープを再生した場合は、コピーガードの影響により本機で正常に録画できません。

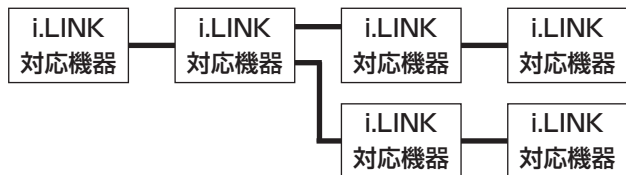
i.LINK 対応機器と接続する（DV-DH1000W/500W）

i.LINK対応機器と本機を接続すると、双方向で映像、音声、制御信号を送信することができます。例えば、本機とD-VHSビデオデッキを接続すれば、本機でD-VHSビデオデッキの基本的な操作を行うことができるようになります。

i.LINKコードを使用して、下図のように接続してください。

i.LINK対応機器の複数接続について

i.LINK対応機器は最大17台まで接続することができます。

信号は接続したすべてのi.LINK対応機器に流れます。操作したいi.LINK対応機器の間に別のi.LINK対応機器が接続されていても、データのやりとりや操作ができます。

i.LINK端子が3端子以上ある機器の場合、途中から分岐してツリー型に接続することもできます。ツリー型で接続する場合は、i.LINK対応機器を最大63台まで接続することができます。

本機と接続できるi.LINK 対応機器

本機では、下記のi.LINK 対応機器との接続のみ対応しています。**下記以外の機器は接続できません。**

D-VHSデジタルハイビジョンビデオデッキ

DT-DRX100（日立製）、HM-DHX1（日本ビクター製）、HM-DHX2（日本ビクター製）、HM-DHS1（日本ビクター製）

Rec-POT M デジタルハイビジョン ハードディスクレコーダー

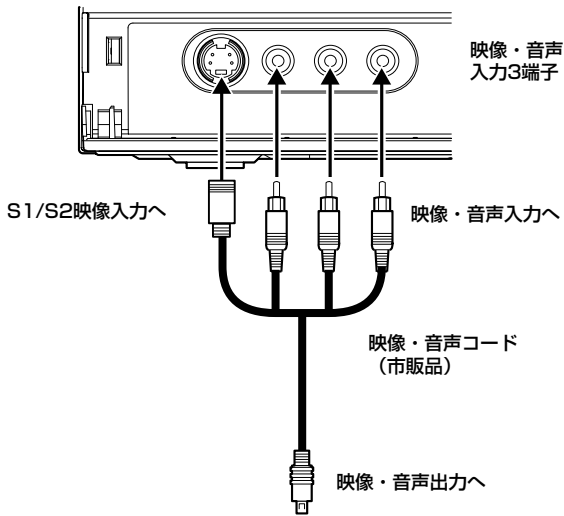
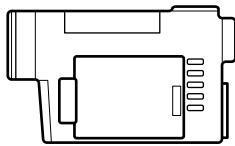
HVR-HD250F/HVR-HD160F/HVR-HD160M（I･O DATA製）（D-VHSモードでご使用ください）

お知らせ

- 本機は最大転送速度が400Mbpsのため、i.LINK対応機器と接続する場合はS400対応以上の4ピンi.LINKコード（市販品）を使用してください。
- i.LINKコードはプラグ部を持って、端子にまっすぐに差し込んでください。斜めからは入りません。
- i.LINKコードは、本機の2つあるi.LINK端子のどちらに接続しても使用できます。
- ループ接続にならないようにしてください。データを送信したi.LINK対応機器に同じデータが戻り、誤作動を起こします。
- i.LINKコードをテレビに近付けると、映像・音声が乱れたり、誤動作を起こすことがあります。i.LINKコードは、テレビからできるだけ離してください。
- 本機とD-VHSビデオデッキをアナログ接続する場合は、「ビデオデッキと接続する」（29ページ）を参照してください。
- 本機と接続したi.LINK対応機器の使用中は、使用していないi.LINK対応機器のi.LINKコードを外したり、接続したり、電源を入れる／切るなどの操作を行わないでください。映像・音声が乱れる場合があります。
- i.LINK対応機器には、電源を切っているとデータを中継できない機器があります。接続するi.LINK対応機器の取扱説明書もお読みください。
- 本機では「i.LINK待機」（80ページ）の設定で、本機の電源を切っているときでも接続しているi.LINK対応機器の制御を受けるように設定することができます。

ビデオカメラと接続する

ビデオカメラと本機を接続すると、ビデオカメラで再生している映像をテレビに映したり、本機に録画することができます。

映像・音声コードおよびS映像コードを使用して、下図のように接続してください。

お知らせ

- S映像コードを接続する場合、映像・音声コードの黄色端子を接続する必要はありません。映像・音声コードの黄色端子とS映像コードの両方を接続した場合は、S映像コードの信号が優先されます。

オーディオ機器と接続する

お手持ちのオーディオ機器と接続すると、テレビ放送や録画した番組を迫力ある音響で楽しむことができます。

アナログ音声端子で接続する

音声コードを使用して、下図のように接続してください。

本機背面

ご注意

- 長さが3m以下の光デジタルケーブルを使用してください。
- 光デジタルケーブルを接続するときは、しっかり奥まで差し込んでください。
- 光デジタルケーブルは、折り曲げると損傷することがあります。保管する際は、直径が15cm 以上になるように巻いてください。

- 本機に接続しているアンプやデコーダーがAACに対応している場合は、各種設定メニューの「デジタル音声出力」（61ページ）を「AAC」に設定してください。AACに対応していない場合は、「PCM」に設定してください。
  また、ドルビーデジタルおよびDTSに対応している場合は、各種設定メニューの「デジタル音声出力」（61ページ）を「AAC」に設定してください。ドルビーデジタルおよびDTSに対応していない場合は、「PCM」に設定してください。
  各機能の設定が正しくないと、デジタル放送を映すときに音が歪み、スピーカーが壊れることがあります。

お知らせ

- MPEG-2 AACやドルビーデジタル、DTS方式で記録されたディスクの音声を、そのままMDデッキやDATデッキでデジタル録音することはできません。

光デジタル音声端子で接続する

デジタル放送やTS/TSXモード（『操作編』:12ページ）で録画した番組を見るとき、またドルビーデジタルサラウンドまたはDTSデジタルサラウンドフォーマットのDVD ディスクを再生するときには、AACやドルビーデジタル、DTS対応のアンプまたはデコーダーと本機を接続すると、大迫力の臨場感あふれるサラウンド音声を楽しむことができます。

光デジタル音声端子は、電気信号を光信号に変換して送るため、電気的影響を受けにくく、また他の外部装置に悪影響を及ぼすおそれも少なくなります。

光デジタルケーブルを使用して、下図のように接続してください。

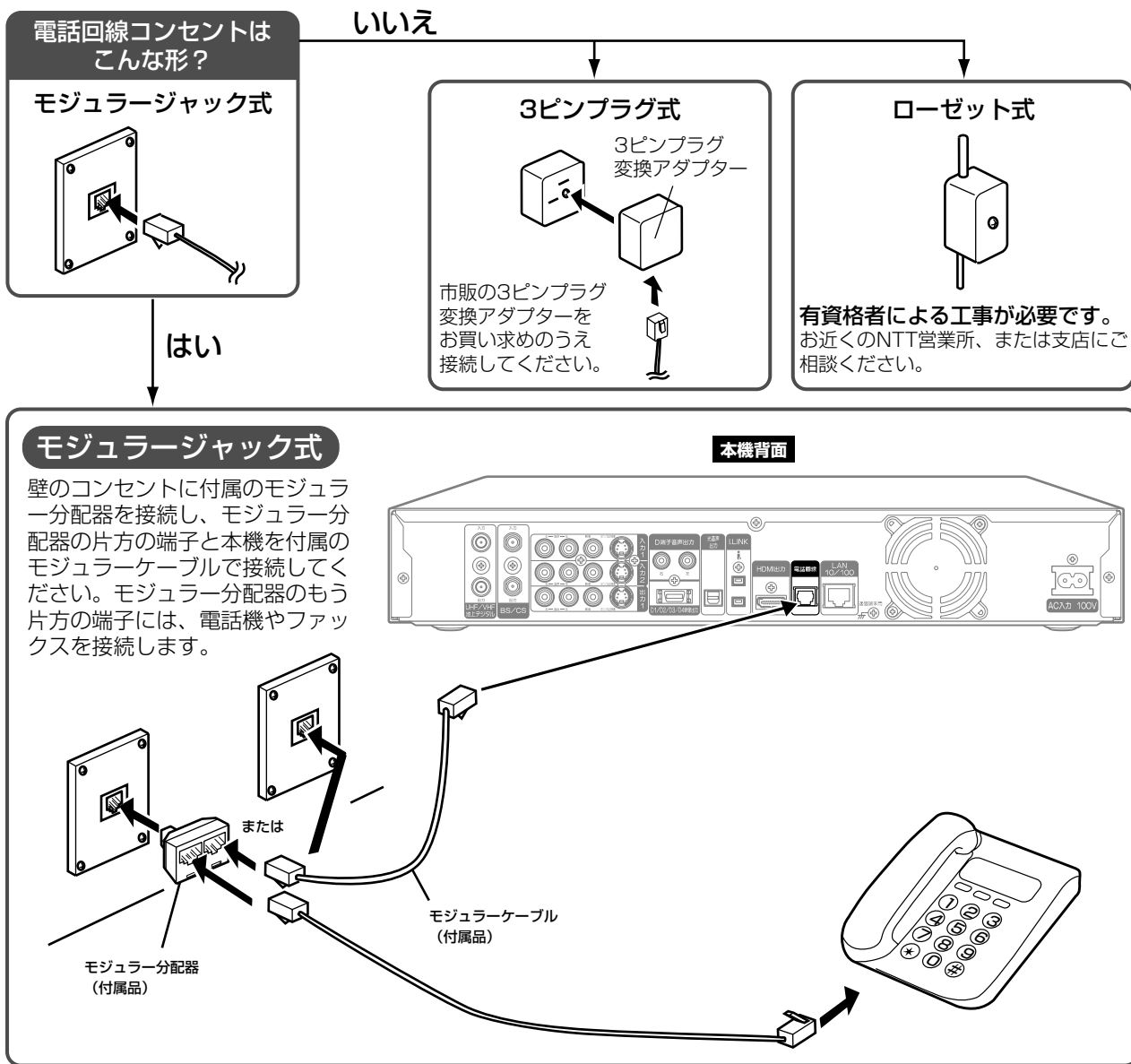
AACのデジタル放送番組では、［音声切換］を押しても光デジタル音声出力の音声は切り換わりません。

❼デジタル放送の拡張的機能を使う接続をする

電話回線と接続する

本機を電話回線に接続すると、デジタル放送の有料番組の視聴記録を送信したり、視聴者参加番組へ参加したりできます。モジュラー分配機とモジュラーケーブルを使用して、下図のようにNTTの2線式公衆電話回線を分配し、プッシュ式またはダイヤル式（10 PPS/20 PPS）の電話機と本機を接続してください。

また、電話回線を接続したあとは、回線の種類や発信者番号通知などを必ず設定してください（71ページ）。

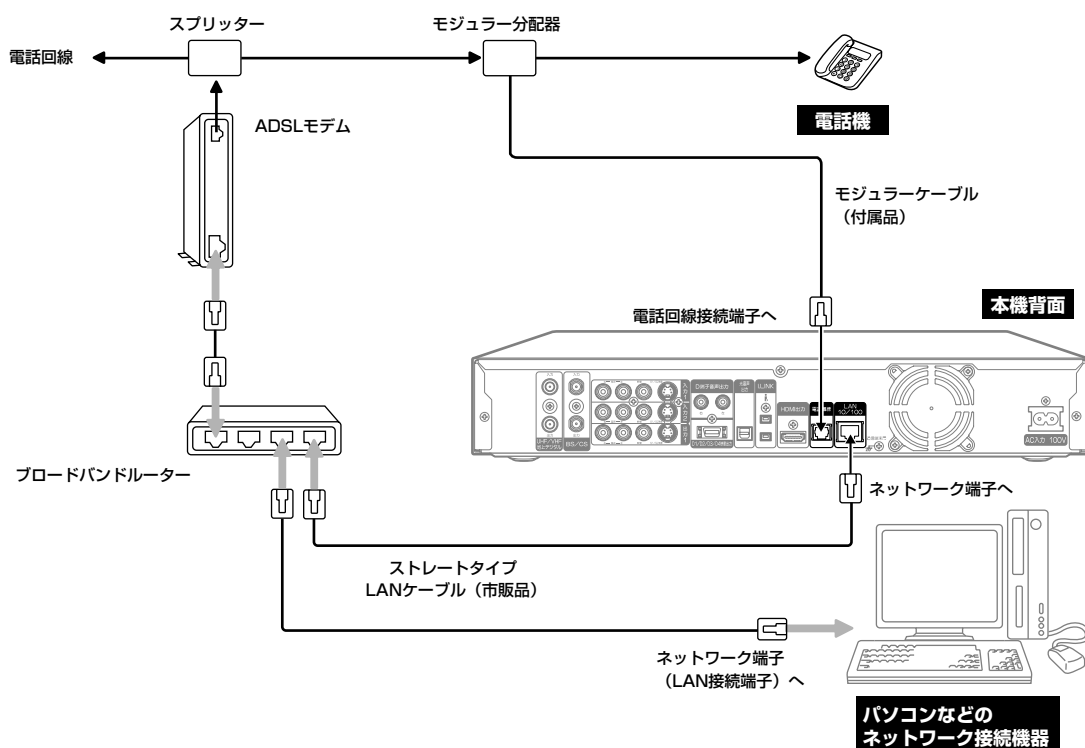
なお、ご使用の電話回線コンセントがモジュラージャック式でない場合は、変換アダプターまたは工事が必要です。

お知らせ

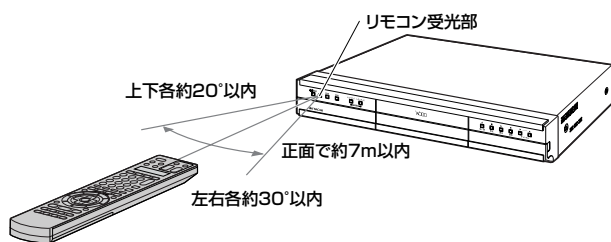
- ホームテレホンやビジネスホンをご使用の場合は、販売店またはNTTの営業所や支店にご相談ください。

インターネット網に接続する

本機は、地上デジタル放送、BSデジタル放送の新しい双方向データサービス（データ放送）に対応するため、インターネット網に常時接続環境で接続できるLANインターフェースを装備しています。必要に応じてインターネット網に接続してください。

お知らせ

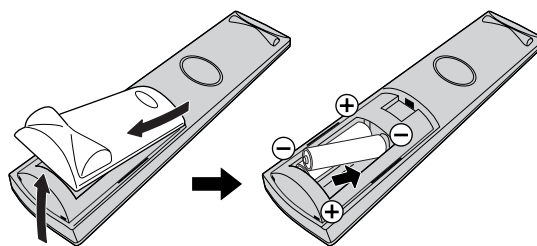
- 本機でインターネット網に接続するには、回線業者やインターネットサービスプロバイダーとの契約が必要です。
- 本機は、ADSLモデムまたはブロードバンドルーターを経由してインターネット網に接続してください。電話回線から直接インターネット網へ接続することはできません。
- スプリッターを介して電話回線を分配する場合は、市販の分配器を使用してください。
- 本機は、地上デジタル放送の双方向データサービス通信が行われるまで、DHCPによるIPアドレス取得を行いません。

リモコンの準備

リモコンの使用範囲について

お知らせ

- 本機の受信部とリモコンの間に障害物を置かないでください。
- 本機の受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てないでください。
- 本機をラックなどに入れて使用するときは、ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの使用範囲が短くなることがあります。

電池を入れる

リモコンに電池を入れると、本機を操作できるようになります。

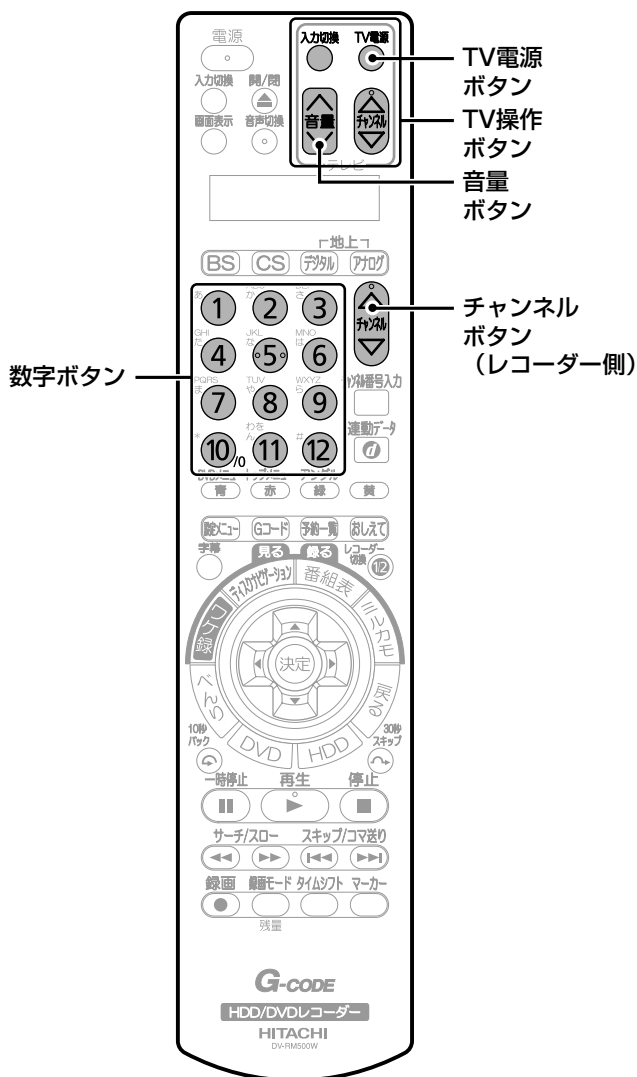
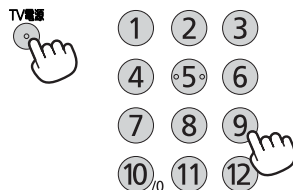
付属の単3形乾電池（2本）の⊕⊖を確認して、⊖側に押しながら入れてください。

⚠注意　乾電池の使用上のご注意

- 本機で指定されていない乾電池は使用しないでください。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 乾電池をリモコンに挿入するときは、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、リモコンの表示どおりに正しく入れてください。向きを間違えて入れると、乾電池の破裂・液もれにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

お知らせ

- リモコンの電池を交換すると、リモコンでテレビの操作ができなくなります。
  この場合は、もう一度テレビのメーカー番号を設定してください（36ページ）。

リモコンでテレビを操作できるようにする

本機と接続しているテレビをリモコンで操作できるように設定します。

1 ［TV電源］を押しながら、数字ボタン（2桁）を押す

● メーカー番号は下記の表をご覧ください。メーカー番号が複数ある場合は、テレビの音量調節などを正しく操作できる番号を選んでください。

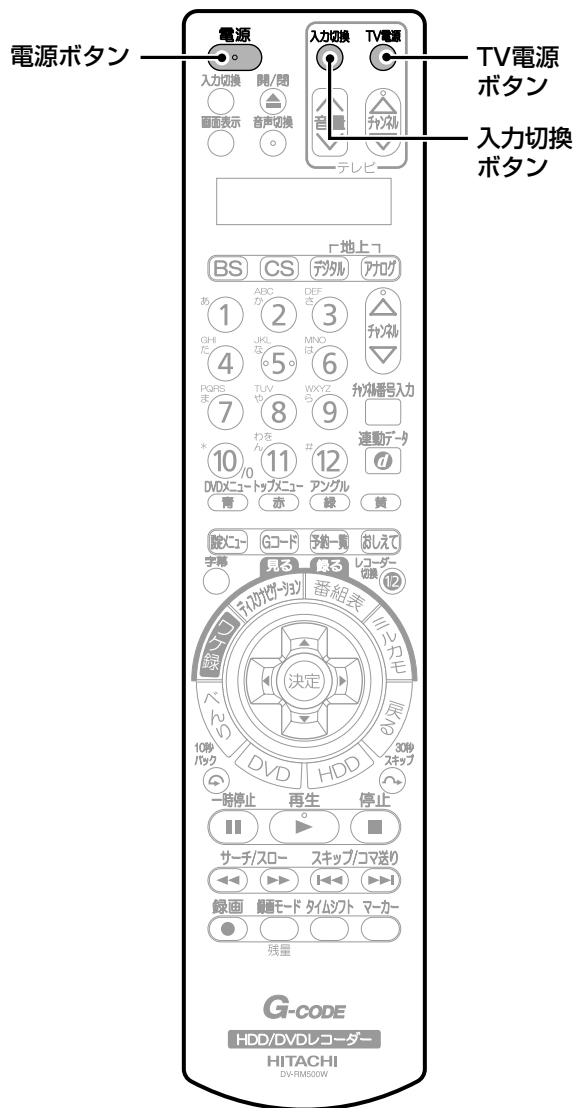
メーカー	番号	メーカー	番号
日立	01	シャープ（1）	09
松下（1）	02	シャープ（2）	10
ビクター	03	富士通ゼネラル	11
ソニー	04	NEC	12
東芝	05	日立／松下（2）	13
三菱	06	松下（3）	14
サンヨー（1）	07	松下（4）	15
サンヨー（2）	08	パイオニア	16

2 リモコンをテレビに向け、［TV電源］、［入力切換］（テレビ側）、［チャンネル△▽］（テレビ側）、［音量 ︿﹀］などを押して、テレビを操作できるか確認する

テレビを操作できない場合は、テレビに付属のリモコンを使用してください。

お知らせ

- 下記の日立製BSデジタルハイビジョンテレビをご使用の場合は、メーカー番号を「13」に合わせてください。
  - ・W32-DH2000　・W36-DH2000
  - ・36CL-DH2200　・32CL-DH2200
- ご使用になるテレビ（プラズマテレビ、液晶テレビを含む）の製造年度や形式により、操作できない、あるいは一部のボタンが働かない場合があります。

電源を入れる／切る

電源を入れる

はじめて本機の電源を入れたときは、簡単セットアップが自動的に起動します。（38ページ）

1 ［電源］を押す

本体の表示窓に「HELLO」のメッセージが表示され、電源が入ります。

- 「HELLO」が繰り返し表示されている間はハードディスク（HDD）の起動処理を行っています。「HELLO」の表示が消えるまでしばらくお待ちください。（約40秒以上）
- 本体にDVDディスクを入れているときは、DVDディスクの確認処理を行うため、「HELLO」の表示が消えるまでさらに時間がかかります。

2 ［TV電源］を押す

テレビの電源が入ります。

3 ［入力切換］を押して、テレビの外部入力を本機に切り換える

テレビ放送が表示されます。これでテレビ放送の視聴や録画、再生などが操作できるようになります。

- テレビ放送が表示されない場合は、［入力切換］を繰り返し押して、テレビの外部入力が本機に切り換わっているか確認してください。また、本機とテレビの接続を確認してください（25ページ）。

お知らせ

- テレビとD映像出力端子、あるいはHDMI出力端子を接続している場合で映像がテレビに映らない場合は、本機の電源を入れた後で、リモコンの［決定］を押しながら左端にあるほうの［入力切換］を押してください。
  この操作をするたびに、出力先が以下のように切り換ります。
  D映像出力端子 ⇔ HDMI出力端子

電源を切る

1 ［TV電源］を押す

テレビの電源が切れます。

2 ［電源］を押す

本体の表示窓に「BYE」のメッセージが表示され、電源が切れます。

- 電源を切った直後は、もう一度［電源］を押しても電源が入らない場合があります。そのような場合は、しばらく待ってからもう一度［電源］を押してください。

簡単セットアップ

本機の電源をはじめて入れたときに、簡単セットアップ画面が表示されます。

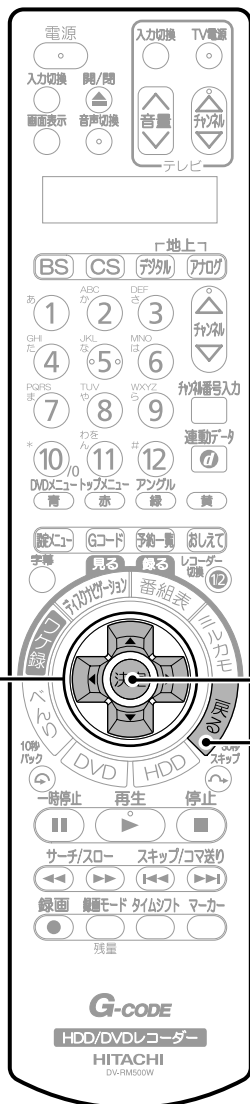
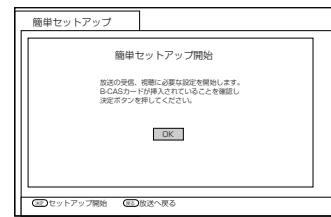
画面の指示に従って、テレビ放送の視聴に必要な設定を行ってください。

簡単セットアップ画面は、次回電源を入れたときからは表示されません。

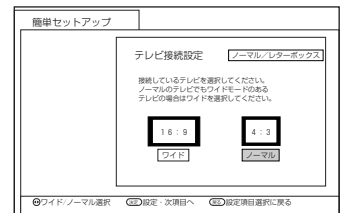
お知らせ

● 一画面前に戻るときは、［戻る］を押します。

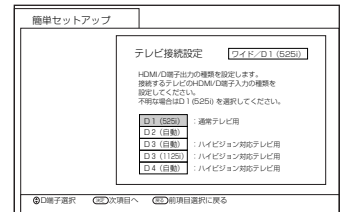
● 簡単セットアップを途中で終了するときは、メニュー画面が消えるまで［戻る］を繰り返し押します。

●「設定メニュー」から各機能を個別に設定することもできます（42ページ）。

1 「簡単セットアップ開始」画面が表示されているのを確認して［決定］を押す

2 接続しているテレビに本機の設定を合わせる

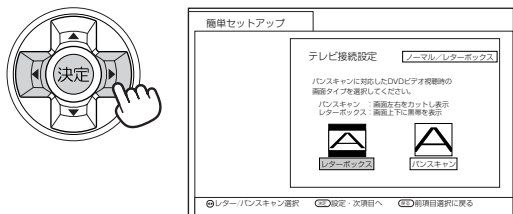
① テレビのタイプ（アスペクト比）を画面の指示に従い［カーソル ◀▶］で選び、［決定］を押す

「アスペクト比について」（41ページ）、およびテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

② 手順①で「ワイド（16：9）」を選んだ場合

お使いのテレビのHDMI/D端子(DV-DH160WではD端子)の種類（D1～D4）に合ったものを［カーソル ▲▼］で選び、［決定］を押す（S映像端子、映像端子で接続する場合は、「D1(525i)」を選んでください。）

「お知らせ」（41ページ）、およびテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

最後に「画面は正常に表示されていますか。」の確認メッセージが表示されます。正常に表示されている場合は［カーソル ◀▶］で「はい」を、正常に表示されない場合は［戻る］を押して手順②を再度行ってください。

手順①で「ノーマル（4：3)」を選んだ場合

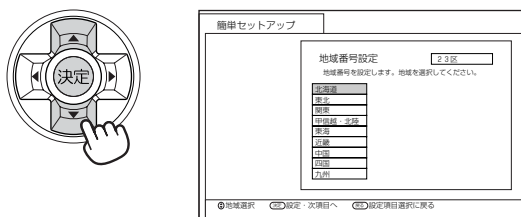
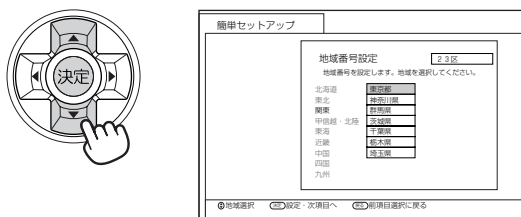
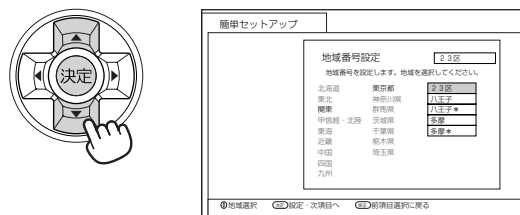
パンスキャンに対応したDVDを視聴するときのテレビの映り方を、画面の説明で確認して、［カーソル ◀▶］で選び、［決定］を押す

D端子付きの4：3テレビを接続する場合は、テレビ側のV圧縮表示機能をオンにして、本機のテレビ接続設定を「ワイド（16：9)」にしてください。

お知らせ

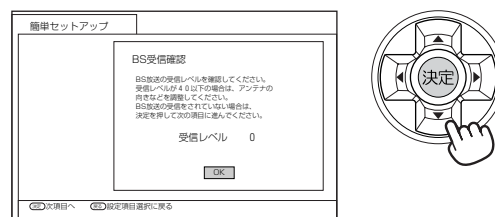
- 本機を4：3テレビのD端子に接続する場合、正しい縦横比で映像を表示するためには、テレビ側の映像を上下に圧縮（V圧縮）して表示する機能（※1）が必要です。そのような機能がない4：3テレビには、D端子で接続できません。S映像端子や映像端子で接続してください。

  ※1：メーカーにより、高画質ワイドモード、高密ワイドモードなどと呼ばれています。

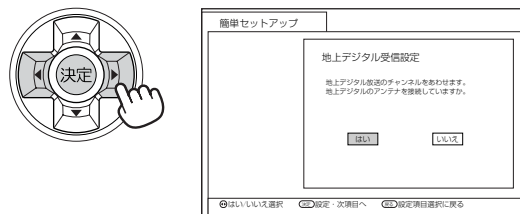
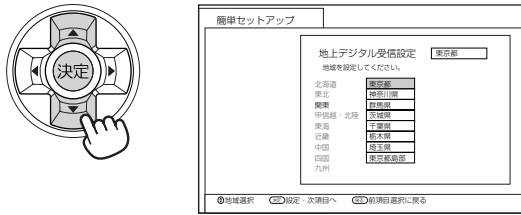
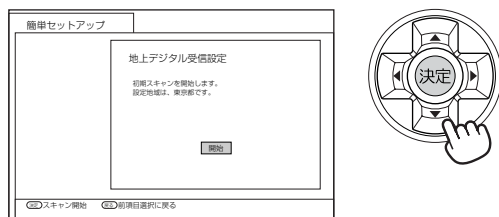
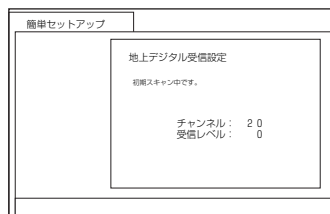
3 地上アナログ放送のチャンネル設定をする

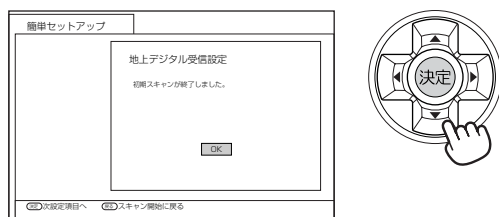
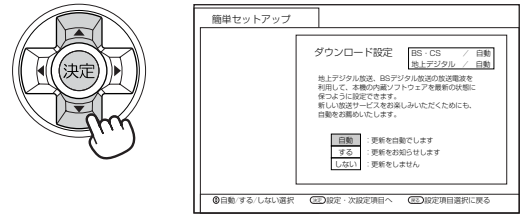
① ［カーソル ▲▼］でお住まいの地方を選び、［決定］を押す

② ［カーソル ▲▼］でお住まいの都道府県を選び、［決定］を押す

③ ［カーソル ▲▼］でお住まいの地域を選び、［決定］を押す

4 BSデジタル放送の受信設定をする

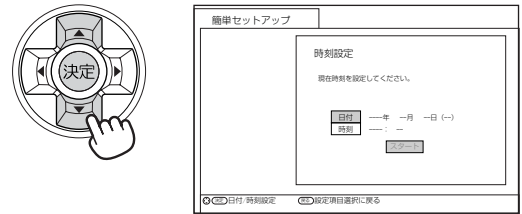
① ［カーソル ◀▶］でBSアンテナへの電源供給設定を選び、［決定］を押す

② BS放送の受信レベルを確認し、画面の指示に従う

5 地上デジタル放送の受信設定をする

① 画面の質問に、［カーソル ◀▶］で「はい」か「いいえ」で答え、［決定］を押す

「いいえ」を選んだ場合、これで手順5は終了です。手順6を行ってください。

② 手順①で「はい」を選んだ場合は、[カーソル▲▼］でお住まいの都道府県を選び、[決定］を押す

③ 地上デジタル放送のスキャン開始画面を確認し、[決定］を押す

チャンネルのスキャンが始まります。

スキャン中は中断しないでください。

④ スキャンが終了すると次の画面が表示されるので、[決定］を押す

6 本機の内蔵ソフトウェアを最新に保つための設定を［カーソル▲▼］で選び、［決定］を押す

7 デジタル放送を受信していない場合は、［カーソル▲▼］と［決定］で年月日と時分を合わせる

詳しくは、「時計を合わせる」（65ページ）を参照してください。

8 「設定終了」画面が表示されたら、[決定］を押す

設定が完了し、通常画面に戻ります。

アスペクト比について

アスペクト比とは画面の縦と横の長さの比のことで、16：9（ワイド）と4：3があります。

本機では以下のように表示されます。

■ワイドテレビに接続した場合

○正しい表示です。
ワイド放送をワイドテレビで表示した場合です。

○正しい表示です。
4：3放送をワイドテレビで表示した場合です。

○正しい表示です。
4：3放送の上下に黒帯が入った映像を表示した場合です。
お使いのテレビによっては「ズーム」などの拡大機能を使って、中央部を画面いっぱいに表示することができます。

×誤った表示です。
ワイド放送の上下に黒帯が付いて表示されています。
「TV接続設定」の「ワイドTV接続」を「する」に設定してください（83ページ）。

×誤った表示です。
テレビ側のワイドモード切替で、「フル」モードなど画面いっぱいになるように切り換えてください。

△本機のD映像出力端子からテレビの1125i信号専用のコンポーネント端子に接続し、4：3放送を視聴した場合の表示です。
正しい縦横比で表示するには、S映像端子または映像端子で接続してください。（ただしハイビジョン画質では表示されません。）

■4：3テレビに接続した場合

○正しい表示です。
4：3放送を4：3テレビで表示した場合です。

○正しい表示です。
ワイド放送を4：3テレビで表示した場合です。

×誤った表示です。
ワイド放送が4：3画面に縦長に表示されています。
「TV接続設定」の「ワイドTV接続」を「しない」に設定してください（83ページ）。

○正しい表示です。
画面の一部が拡大された表示です。
「TV接続設定」の「16：9映像出力」を「パンスキャン」に設定し、パン＆スキャンに対応した市販のDVDビデオを再生した場合です。

お知らせ

● ［設定メニュー］を押し、［カーソル ▲▼］で「簡単セットアップ」を選択して［決定］を押すと、再度簡単セットアップを行うことができます。

機能設定
- 各種設定
- 受信設定
- 外部設定
- タイムシフト設定
- HDD-DVD設定
- TV接続設定
- 簡単セットアップ

● デジタル放送の受信設定でデジタル放送の受信レベルが低い場合は、受信できないことがあります。この場合は、アンテナの向きを調整したり、接続状況（接栓・分配・混合など）を確認してから、受信レベルの数値が地上デジタル放送の場合は45以上、BS／CSデジタル放送の場合は40以上あることを確認してください（54、56ページ）。

●「お使いのテレビの接続設定」では、テレビ側の端子をご確認ください。
- 「D1」、「D2」： ハイビジョン未対応の通常テレビ
  「D1映像入力端子」「D2映像入力端子」のあるテレビに接続するとき、または、D端子を使用せず「外部入力端子」「S映像入力端子」と接続するときに選びます（25ページ）。
- 「D3」、「D4」： ハイビジョン対応テレビ
  「D3映像入力端子」「D4映像入力端子」のあるテレビに接続するときに選びます（25ページ）。

● HDMI/D端子設定で「D3（自動）」「D3（1125i）」を選択しても、「自動」／「固定」の選択画面に移りません。

●「時計の設定」で、デジタル放送を受信している場合は、時計の設定は必要ありません。